

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

2024 年度 研究活動報告書

龍谷大学世界仏教文化研究センター編 2025.3



Edited and Published by

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

2024 年度 研究活動報告書

序 文

2024（令和6年）年度の「世界仏教文化研究センター研究活動報告書」をお届けします。

世界仏教文化研究センターは、2015（平成27）年4月に設立され、2025年度には10周年の節目を迎えます。センター設立の意義である、龍谷大学の建学の精神にもとづき、仏教を機軸とした学術研究を通じた社会への貢献という使命を果たすべく、今年度も「進取と伝統」につながる多くの研究事業が展開されました。本報告書では、それらの研究活動を取りまとめました。ご高覧ほど、よろしくお願いいたします。

センターの名称にある「世界」が意味するところは、「すべての地球市民のための」ということだと考えています。すなわち、「仏教」がすべての人たちにどのように貢献できるかを追究すること、それがセンターで行われるすべての研究に通底している基本的な考え方です。今年度も、そうした考えの具現化に向け、特別講演会、国際研究セミナー、シンポジウム、フォーラム、ワークショップや、昨年度ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）と学術連携協定を締結した記念シンポジウムの開催、青蓮院御門主をお招きした研究報告会など、多様な研究事業を推進しました。こうした研究事業の展開は、偏に研究者各位のご尽力と、事務局の方々のご助力によるものと考えております。

関係各位には、この場をおかりして、改めて感謝申し上げます。

本センターの基礎研究部門、応用研究部門、国際研究部門、附属研究センターである「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター」「ジェンダーと宗教研究センター」「社会的孤立回復支援センター」の研究活動の概要につきましては、本報告書「主要研究活動概要」をご覧ください。また、研究成果はセンターが発行する学術誌『仏教文化研究叢書』、『世界仏教文化研究論叢』及び *Journal of World Buddhist Cultures*（『世界仏教文化研究』）を通して、国内外に広く発表しております。

本センターでは、設立の意義を実現すべく、努力を重ねてまいります。特に、節目の年となります、創立400周年を迎える2039年に向けて、本学の長期事業計画「龍谷大学基本構想400」の一翼をセンターが担えるよう、研究を結実したいと考えています。

みなさまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2025（令和7）年3月

センター長 藤原 直仁

藤原 直仁

❖ 2024 年度研究活動一覽 ❖◆ 主要研究活動概要 ◆

＜基礎研究部門＞

2024年5月13日 ◆ 研究セミナー ◆

「戦前期本願寺派のアジア布教—パネル展示に寄せて—」 33

2024年5月27日 ❖ ワークショップ ❖

『心性罪福因縁集』とは何か 35

2024 年 6 月 13 日 ❖ 講演会 ❖	
「仏教における身体と環境の哲学—『転法輪経』と『無我相経』を中心に—」	37
2024 年 6 月 14 日 ❖ 研究会 ❖	
「大乘莊嚴經論の梵本をめぐる近況とその周辺」	39
2024 年 7 月 7 日 ❖ シンポジウム ❖	
「『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響」	41
2024 年 7 月 18 日 ❖ 講演会 ❖	
「東アジア仏教における韓国仏教の特質—華嚴思想を中心に—」	44
2024 年 8 月 20 日 ❖ 研究会 ❖	
「三業惑乱裁定過程の更なる究明に向けて」	46
2024 年 9 月 7 日 ❖ ワークショップ ❖	
「真宗学と談義本（勸化本）」	48
2024 年 9 月 27 日 ❖ 講演会 ❖	
「Buddhist Culture of the Silk Road: On the Printed Old Uyghur Abhidharma Texts in Japan and the German Turfan Collection」	50

2024 年 10 月 6 日～2025 年 2 月 26 日 ❖ 研究セミナー ❖	
「過疎地域伝道実践研究プロジェクト」	52
2024 年 12 月 6 日 ❖ 研究会 ❖	
「中世真宗における聖教の形成―覚如著作の書写・伝授・集録を通して―」	54
2025 年 1 月 23 日 ❖ ワークショップ ❖	
「中世延暦寺における論義―三周義を中心に―」	56
2025 年 2 月 5 日 ❖ 研究セミナー ❖	
「北斉時代における阿弥陀浄土信仰の興起―石刻資料からの分析―」	58
2025 年 2 月 14 日 ❖ 講演会 ❖	
「古籍を引き継ぐために―古籍原本調査研究会活動報告―」	60
2025 年 2 月 20 日 ❖ 研究セミナー ❖	
「世親の釈軌論―経典を解釈することについて―」	62
2025 年 2 月 21 日 ❖ 研究報告会 ❖	
「天台密教経蔵の世界を探る ―青蓮院門跡吉水蔵のデジタル・アーカイブ創成をめざして―」	64

2025 年 2 月 21 日 ❖ シンポジウム ❖

「学術連携協定締結記念シンポジウム
龍谷大学 RCWBC & ロンドン大学 SOAS」 66

<応用研究部門>

2024 年 5 月 22 日 ❖ シンポジウム ❖

「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」 68

2024 年 6 月 5 日 ❖ 展覧会 ❖

「みんなちがって、みんないい。
童謡詩人 金子みすゞ～まなざしの源泉～」 71

2024 年 6 月 5 日 ❖ 特別公演 ❖

「みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～」 73

2024 年 6 月 11 日 ❖ 特別講義 ❖

「地域に開かれた寺院」 77

2024 年 6 月 13 日 ❖ 特別講義 ❖

「金子みすゞ～いのちへのまなざし～」 79

2024 年 6 月 19 日 ❖ 特別公演 ❖	
「みすゞの読んだアンデルセン童話」	82
2024 年 6 月 21 日 ❖ 研究会 ❖	
「大乘仏教の国際関係論：日本の事例からの考察」	85
2024 年 6 月 25 日 ❖ 特別講義 ❖	
「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」	86
2024 年 7 月 9 日 ❖ グリーフケア講座 ❖	
「傾聴のコツ：話を「否定せず、遮らず、拒まず」	88
2024 年 7 月 17 日 ❖ グリーフケア講座 ❖	
「スピリチュアルケア」	90
2024 年 10 月 9 日 ❖ 特別講義 ❖	
「実践真宗学のフロンティア」	91
2024 年 11 月 20 日 ❖ 特別講義 ❖	
「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」	93

2024 年 11 月 22 日 ❖ 新書発表会 ❖

「Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism
in a Pluriversal World」 96

2024 年 11 月 26 日 ❖ ディスカッション形式講演会 ❖

「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」 97

2024 年 12 月 11 日 ❖ グリーフケア講座 ❖

「ビハーラ活動—物語を紡ぐ—」 98

2025 年 1 月 15 日 ❖ 新春シンポジウム ❖

「臨床宗教師の現在と近未来」 101

<国際研究部門>

2024 年 5 月 17 日 ❖ 研究セミナー ❖

ジェンダーの視点で語る仏教者による社会実践 103

2024 年 6 月 10 日 ❖ 国際ワークショップ／沼田研究フェロー講演会 ❖

浄土真宗、ハンセン病、近代日本における「死者の市民権」 106

2024 年 6 月 13 日 ❖ 国際ワークショップ ❖

現代日本の仏教寺院—宗教的廃棄物、再利用、そして活性化—	108
2024 年 6 月 28～30 日 ❖ 国際ワークショップ ❖	
第 13 回『歎異抄』ワークショップ	110
2024 年 7 月 4 日 ❖ 国際ワークショップ ❖	
現代の日本仏教における社会の分断化と地域社会へのアウトリーチ活動	113
2024 年 9 月 28～29 日 ❖ 第 20 回国際真宗学会大会公開記念講演会 ❖	
『往生要集』における浄土信仰の諸問題	116
2024 年 12 月 21 日 ❖ ワークショップ ❖	
初期イスラーム社会のセクシュアリティとクィア研究 —LGBTQ「受容」に向けたイスラームの試み—	118
2025 年 3 月 7～9 日 ❖ ワークショップ ❖	
第 14 回『歎異抄』註釈ワークショップ	121
2025 年 3 月 7 日 ❖ 研究成果 ❖	
Journal of World Buddhist Cultures, Vol.8	123

❖ その他 ❖

龍谷大学世界仏教文化研究センター2024 年度研究体制

127

2024 年度 研究活動 一覽

2024 年度 基礎研究部門 研究活動一覧表

研究セミナー	
テーマ	戦前期本願寺派のアジア布教—パネル展示に寄せて—
開催日時	2024 年 5 月 13 日（月）17:00～18:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 1 階ロビー／Google Meet 併用
講演者	中西 直樹（龍谷大学文学部教授）
司会	嵩 満也（龍谷大学国際学部教授）
主催	「明治期におけるトランスナショナルな日本仏教の諸相とその動向」研究会（代表：嵩満也）
共催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 仏教史・真宗史総合研究班（代表：中西直樹）
参加人数	17 名

国際ワークショップ	
テーマ	『心性罪福因縁集』とは何か
開催日時	2024 年 5 月 27 日（月）13:00～17:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 清和館 3F 会議室／Zoom 併用
報告者	「呉越・北宋の浙江仏教と『心性罪福因縁集』」 吉原浩人（早稲田大学教授・同総合研究機構日本宗教文化研究所所長） 「『心性罪福因縁集』の説話構造と依拠資料」 崔 鵬偉（龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員）
コメンテーター	ステファン・デル（ハンブルク大学教授）
司会進行	阿部泰郎（龍谷大学名誉教授・名古屋大学名誉教授）
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門

参加人数	21 名（内オンライン 13 名）
------	-------------------

沼田研究奨学金受給者講演会	
テーマ	仏教における身体と環境の哲学 Philosophy of Body and Environment in Buddhism with special reference to Dhammacakkappavattana Sutta and Anattalakkhaṇa Sutta
開催日時	2024 年 6 月 13 日（木）13:30～15:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール
講演者	Professor San Tun Department of Buddhist Philosophy, Dhammaduta Chekinda University , Myanmar サントウン教授（ダンマドゥータチェーキンダ大学）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門
参加人数	55 名

研究セミナー	
テーマ	大乘莊嚴經論の梵本をめぐる近況とその周辺 —ポタラ宮所伝の新出貝葉写本ほか—
開催日時	2024 年 6 月 14 日（金）15:15～16:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
発表者	加納和雄（駒澤大学准教授） 李学竹（中国チベット学研究センター研究員）
司 会	能仁正顕（龍谷大学文学部教授）
主 催	世界仏教文化研究センター・基礎研究部門・大蔵経総合研究班（代表：能仁正顕）
参加人数	74 名

沼田研究奨学金受給者特別特別講演会

テーマ	講演①：ダッカ・ダルマラージカ仏教寺院の実態と社会的役割 講演②：バングラデシュの演劇における女性の地位：社会経済的および宗教的観点
開催日時	2024 年 6 月 27 日（木）
開催場所	龍谷大学大宮学舎 南翼 102 教室
講演者	①Dr. Dilip Kumar Barua（University of Dhaka） ②Assistant Prof. Farzana Naz Swarna Prova（University of Jatiya Kabi Kazi Nazrul Islam Jatiya Kabi Kazi Nazrul Islam）
主 催	世界仏教文化研究センター・基礎研究部門・大蔵経総合研究班（代表：能仁正顕）
参加人数	16 名

国際研究集会	
テーマ	『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響
開催日時	2024 年 7 月 7 日（日）10:00～17:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
プログラム	基調講演<午前の部> 「『心性罪福因縁集』研究の現状と課題—宝誌説話を例に—」 吉原浩人（早稲田大学文学学術院教授・同宗文研所長） 「五代・北宋の仏教説話集と日本への影響」 李銘敬（中国人民大学教授・早大宗文研招聘研究員） 「創作説話集としての『心性罪福因縁集』—西行仮託『撰集抄』から読み直す—」 阿部泰郎（龍谷大学/名古屋大学名誉教授・早大宗文研招聘研究員） 研究発表<午後の部> 「『心性罪福因縁集』における『宗鏡録』の受容」 崔鵬偉（龍谷大学世界仏教文化研究センターPD・早大宗文研招聘研究員） 「『心性罪福因縁集』における「理観念仏」」 八木徳俊（早大宗文研 RA） 「『心性罪福因縁集』における「事念仏」と永観への影響」 松尾善匠（東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程・早大宗文研

	研究補助者) 『心性罪福因縁集』下巻「法崇和尚誠弟子語」における不動真言 田中亜美（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程・同宗文研 RA） 『心性罪福因縁集』上巻「打囲碁二老僧」における『忘憂清楽集』の影響 櫻本香織（早稲田大学文化構想学部助手・同宗文研研究所員）
コメンテーター	柳幹康（東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所副所長）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター／ジェンダーと宗教研究センター／龍谷学会
共 催	JSPS 科研費基盤研究（A）「宗教テキスト文化遺産アーカイブス創成学術共同体による相互理解知の共有」（研究代表者：阿部泰郎 課題番号 22H00005）・龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 特定公募研究（個人）『心性罪福因縁集』の思想的研究（研究代表者：崔鵬偉）
参加人数	45 名

特別講演会	
テーマ	東アジア仏教における韓国仏教の特質—華嚴思想を中心に—
開催日時	2024 年 7 月 18 日（木）17:00～18:15
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
講演者	金天鶴（韓国・東国大学校教授）
司 会	野呂靖（龍谷大学心理学部准教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター基礎研究部門
参加人数	28 名

第 31 回「仏教と近代」研究会	
テーマ	オリオン・クラウタウ 『隠された聖徳太子—近現代日本の偽史とオカルト文化』書評会
開催日時	2024 年 8 月 4 日（日）13:30～17:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
プログラム	趣旨説明：近藤俊太郎（本願寺史料研究所）

	評者によるコメント ①池田智文（ノートルダム女学院中学高等学校） ②佐藤文子（京都先端科学大学） ③栗田英彦（佛教大学） 著者によるリプライ オリオン・クラウタウ（東北大学）
司 会	大谷栄一（佛教大学）
主 催	「仏教と近代」研究会
共 催	科学研究費・基盤研究 B「近代日本の教化政策と伝統仏教教団の教化活動の総合的研究」（23K25266）、東北大学日本学研究会、龍谷大学世界仏教文化研究センター（親鸞浄土教総合研究班）
参加人数	32 名

公開研究会	
テーマ	三業惑乱裁定過程の更なる究明に向けて
開催日時	2024 年 8 月 20 日（土）17:00～18:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 南翼 105 教室
講演者	上野大輔（慶應義塾大学文学部准教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 特定公募研究「大瀛『横超直道金剛錍』の研究」（研究代表者：殿内恒）
参加人数	18 名

ワークショップ	
テーマ	真宗学と談義本（勸化本）―殿内先生にご教示を仰ぐ研究談話会―
開催日時	2024 年 9 月 7 日（土）14:30～16:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 3 階小会議室
講 師	殿内恒（龍谷大学文学部教授）

司 会	和田恭幸（龍谷大学文学部教授）
主 催	世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 古典籍資料総合研究班 「龍谷大学大宮図書館所蔵近世勸化本選集の作成をめざす研究」
参加人数	19 名

写真パネル展示	
テーマ	海を越えた真宗一本願寺派北米布教への道のりー
開催日時	2024 年 9 月 23 日（月）～10 月 6 日（日）
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 1 階ロビー
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 仏教史・真宗史研究総合班（代表:中西直樹）
共 催	「明治期におけるトランスナショナルな日本仏教の諸相とその動向」研究会（代表:嵩満也）
参加人数	19 名

絵解きフォーラム	
テーマ	聖徳太子絵伝 絵解きフォーラム in Kyoto
開催日時	2024 年 11 月 7 日（木）14:45～16:30
開催場所	龍谷ミュージアム 101 講義室
プログラム	開会挨拶 ハルオ・シラネ（コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター長） 司会進行 解 説 阿部美香（名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター研究員） 絵解き実演 山岡武明（四天王寺執事・広報部長） 榎野明仁（三河すーぱー絵解き座座長） 梶田英伸（三河すーぱー絵解き座座員） トークセッション

	インタビュアー：ハルオ・シラネ ゲスト：鈴木登美（コロンビア大学教授） 左右田智世（三河すーぱー絵解き座副座長） 閉会挨拶 阿部泰郎
司 会	阿部泰郎（龍谷大学世界仏教文化研究センター招聘研究員）
主 催	コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター
共 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター
参加人数	50 名

公開研究会	
テーマ	中世真宗における聖教の形成—覚如著作の書写・伝授・集録を通して—
開催日時	2024 年 12 月 6 日（金）15:30～17:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 北翼 106 教室
講 師	富島信海（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員・龍谷大学非常勤講師）
司 会	高田文英（龍谷大学教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 親鸞浄土教総合研究 班・真宗善本典籍研究プロジェクト
参加人数	19 名

研究セミナー	
テーマ	過疎地のお寺の伝道活動—新たな伝道手段を用いて—
開催日時	2024 年 12 月 27 日（金）14:00～17:20
開催場所	Zoom
プログラム	発表① 講題：「LINE 公式を用いた門信徒との信頼関係の築き方」 講師：木賣慈教（浄土真宗本願寺派西敬寺住職） 発表② 講題：「ローカル寺院のオープンデータ化—Wikipedia を活用する—」 講師：桂まに子（京都女子大学講師）

	発表③ 講題：「SNS を用いた伝道の力」 講師：松崎智海（浄土真宗本願寺派永明寺住職）
ファシリテーター	長岡岳澄（中央仏教学院講師）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター基礎研究部門 研究分野横断的研究プログラム（応用学術）「過疎地伝道実践研究プロジェクト」
参加人数	33 名

研究セミナー	
テーマ	過疎被災地としての奥能登真宗寺院の復興活動—蓮如道中を奥能登へ—
開催日時	2025 年 1 月 14 日（火）13:30～15:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／Zoom 併用
講 師	太田浩史 （となみ民藝協会会長・日本民藝協会常任理事・真宗大谷派大福寺住職）
司 会	楠 淳澄（龍谷大学教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター基礎研究部門 研究分野横断的研究プログラム（応用学術）「過疎地伝道実践研究プロジェクト」
参加人数	40 名

研究セミナー	
テーマ	中世延暦寺における論義—三周義を中心に—
開催日時	2025 年 1 月 23 日（木）16:00～17:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／Zoom 併用
講 師	長谷川裕峰（叡山学院准教授）
司 会	吉田慈順（天台宗典編纂所編輯員・龍谷大学非常勤講師）
ファシリテーター	道元徹心（龍谷大学教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 大蔵経総合研究班
参加人数	24 名

研究セミナー	
テーマ	北齊時代における阿弥陀浄土信仰の興起
開催日時	2025 年 2 月 5 日（水）15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階 大会議室
講 師	倉本尚徳（京都大学人文科学研究所准教授）
コメンテーター	内田准心（龍谷大学准教授）
司 会	都河陽介（龍谷大学講師）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門特定公募研究 「真宗聖教の文献学的研究」
参加人数	29 名

公開講演会	
テーマ	古籍を引き継ぐために―古籍原本調査研究会活動報告―
開催日時	2025 年 2 月 14 日（金）14:30～16:40
開催場所	龍谷大学大宮学舎 南翼 204 教室
講 師	宮川真弥（天理大学附属天理図書館司書研究員）
司 会	和田恭幸（龍谷大学教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 古典籍資料総合研究班
参加人数	17 名

研究セミナー	
テーマ	世親の釈軌論―経典を解釈することについて―
開催日時	2025 年 2 月 20 日（木）15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階 大会議室

講 師	上野牧生（大谷大学准教授）
コメンテーター	上野隆平（龍谷大学講師）
司 会	北山祐誓（龍谷大学講師）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門特定公募研究 「真宗聖教の文献学的研究」
参加人数	24 名

研究報告会	
テーマ	天台密教経蔵の世界を探る —青蓮院門跡吉水蔵のデジタル・アーカイブ創成をめざして—
開催日時	2025 年 2 月 21 日（金）10:30～12:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 清風館 3 階ホール／Zoom 併用
プログラム	報告① 「青蓮院吉水蔵『浄土嚴飾抄』の再検討」 道元徹心（世界仏教文化研究センター兼任研究員） 報告者② 「青蓮院吉水蔵の歴史的特徴—三昧流聖教を中心に」 菊地大樹（東京大学史料編纂所教授） 報告③ 「青蓮院吉水蔵の慈円著作聖教—自筆テキストを中心に」 阿部泰郎（世界仏教文化研究センター招聘研究員）
司 会	西山良慶（龍谷大学講師）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 大蔵経研究班
参加人数	65 名

シンポジウム	
テーマ	龍谷大学 RCWBC & ロンドン大学 SOAS 学術連携協定締結記念シンポジウム
開催日時	2025 年 2 月 21 日（金）14:00～16:30

開催場所	龍谷大学大宮学舎 清風館 3 階ホール／Zoom 併用
プログラム	基調講演 「日本天台密教研究の可能性―儀礼の考察から見えるもの―」 ルチア・ドルチェ（ロンドン大学 SOAS・教授） 対 談 「国際的な仏教研究の潮流と課題 ——ロンドン大学 SOAS と龍谷大学世仏センターの連携が生む可能性」 入澤崇（龍谷大学学長） ルチア・ドルチェ 阿部泰郎（世界仏教文化研究センター招聘研究員） 野呂靖（世界仏教文化研究センター副センター長）
司 会	道元徹心（世界仏教文化研究センター兼任研究員）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター
参加人数	55 名

研究セミナー	
テーマ	過疎地のお寺の伝道活動―過疎地の伝道を考える―
開催日時	2025 年 2 月 26 日（水）13:30～16:40
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東麓 302 教室／Zoom 併用
プログラム	報告① 講題：世界で実践力を発揮している「お寺」に学ぶ 講師：清岡隆文（浄土真宗本願寺派 大阪教区島下組 大光寺前住職・浄土真宗本願寺派布教使・元龍谷大学大学院実践真宗学研究科特任教授・元本願寺派布教使課程専任講師） 報告② 講題：寺院のアライアンス化による伝道力の教化 講師：杉山雲来（浄土真宗本願寺派 岐阜教区中川北組 正尊寺住職・本願寺派布教使・美濃四十八座発案者） 報告③ 講題：新しい法座の開催方法 講師：若林唯人（浄土真宗本願寺派 大阪教区中島東組 光照寺衆徒・本願寺派布教使・本願寺派 布教研究専従職員・中央仏教学院講師・元フリー

	スタイルな僧侶たち代表)
司 会	葛野洋明 (龍谷大学教授)
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 研究分野横断的研究プログラム (応用学術)「過疎地伝道実践研究プロジェクト」
参加人数	31 名

シンポジウム	
テーマ	『八群品』シンポジウム
開催日時	2025 年 3 月 4 日 (火) 13:00～17:15
開催場所	龍谷大学大宮学舎 清和館 3F ホール／Zoom 併用
プログラム	「無所有の境涯における常時の自省 (意識分析)」というブッダの哲学」 中谷英明 (世界仏教文化研究センター招聘研究員、東京外大名誉教授) 「現代精神医学・脳科学から見たブッダの意識論」 村井俊哉 (京都大学大学院医学研究科精神医学教授) 「五位相論とアビダルマ教義における五蘊説・十二因縁説、ならびに、唯識の八識説について」 室寺義仁 (滋賀医科大学名誉教授、世界仏教文化研究センター客員研究員) “Mind,cognition,and the rebirth process in late Indian Buddhist philosophy” Vincent Eltschinger (Professor, Ecole Pratique des Hautes Etudes, Paris, France) 「アフガニスタン・パキスタン出土仏教写本の研究動向」 松田和信 (佛教大学名誉教授)
司 会	手嶋英貴 (龍谷大学法学部教授)
主 催	科研費基盤研究 (B)「最古の仏典『八群品』の研究」(23K25263)
共 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター
参加人数	46 名

講演会	
テーマ	大谷探検隊がクチャで収集したふたつの舍利容器

開催日時	2025 年 3 月 4 日（火）15:00～16:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 201 教室／Zoom 併用
講 師	勝木言一郎（東京国立博物館研究員）
趣旨説明	三谷真澄（龍谷大学教授）
司 会	荻原裕敏（古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター 博士研究員）
主 催	龍谷大学古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター
共 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 西域総合研究班
参加人数	30 名

講演会	
テーマ	シャーンタラクシタ・カマラシーラ師弟と＜瑜伽行＞
開催日時	2025 年 3 月 6 日（木）16:00～17:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
講 師	志賀浄邦（京都産業大学教授）
コメンテーター	早島慧（龍谷大学国際学部准教授）
司 会	能仁正顕（龍谷大学文学部教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門 大蔵経総合研究班
共 催	龍谷学会
参加人数	26 名

2024 年度 応用研究部門 研究活動一覧表

シンポジウム「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」	
開催日時	2024 年 5 月 22 日（水）11：00～12：30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
プログラム	■基調講演 Mark Ty Unno（University of Oregon Professor of Religious Studies, Religious Studies, Department Head） 「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」 ■対談 Mark Ty Unno 鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門・国際研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
協 力	日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費「臨床宗教師のケア-現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研究代表者 鍋島直樹（龍谷大学）
参加人数	150 名

展覧会	
展覧会名	みんなちがって、みんないい。 童謡詩人 金子みすゞ展～まなごしの源泉～
開催日時	2024 年 6 月 5 日（水）～26 日（水） 10:00～16:00 ※土・日・月は休館、但し 22 日（土）、23 日（日）は開館。
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館展覧室
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
来館者数	854 名

特別公演	
テーマ	みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～
開催日時	2024 年 6 月 5 日（水） 11:00～12:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
講 師	矢崎節夫（童謡詩人金子みすゞ記念館館長）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULIA 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
参加人数	210 名

特別講義	
テーマ	地域に開かれた寺院
開催日時	2024 年 6 月 11 日（火） 15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 北翼 101 教室
講 師	柱本惇（龍谷大学文学部非常勤講師、浄土真宗本願寺派布教使・明覚寺住職、元あそかビハーラ病院ビハーラ僧）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、国際研究部門
協 力	日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費「臨床宗教師のケア—現代日本の 仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研究代表者 鍋島直樹（龍谷大学）
参加人数	12 名

特別講義	
テーマ	金子みすゞ～いのちへのまなざし～
開催日時	2024 年 6 月 13 日（火） 13:30～15:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 209 教室
講 師	鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）

~~~~~

|      |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主 催  | 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會                              |
| 協 力  | 金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、J U L A 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center |
| 参加人数 | 24 名                                                                                           |

| 特別公演 |                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ  | みすゞの読んだアンデルセン童話                                                                             |
| 開催日時 | 2024 年 6 月 19 日（水）                                                                          |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂                                                                           |
| 講 師  | 柴崎大輔・北尾知子（JULA 出版局）                                                                         |
| 主 催  | 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會                     |
| 協 力  | 金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center |
| 参加人数 | 160 名                                                                                       |

| 研究会  |                                       |
|------|---------------------------------------|
| テーマ  | 大乘仏教の国際関係論 日本の事例からの考察                 |
| 開催日時 | 2024 年 6 月 21 日（金）16:55～18:25         |
| 開催場所 | 龍谷大学深草キャンパス 和顔館 306 教室                |
| 講 師  | 林佩瑩（国立政治大学宗教学大学院（台湾）・准教授）             |
| 主 催  | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 グローバル・アフェアーズ研究センター |

| 特別講義 |                               |
|------|-------------------------------|
| テーマ  | 龍谷大学からジェンダー平等をめざして            |
| 開催日時 | 2024 年 6 月 25 日（水）15:15～16:45 |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 北翼 105 教室            |

|      |                                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 講 師  | 安食真城（龍谷大学宗教部課長、浄土真宗本願寺派覚浄寺住職、豊郷町教育委員会委員、NPO 法人にじいろ Biwako 理事）                           |
| 主 催  | 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、ジェンダーと宗教研究センター、実践真宗学研究所                   |
| 協 力  | 日本学術振興会科学研究費基金特別研究員奨励費「臨床宗教師のケア—現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071）<br>研究代表者 鍋島直樹（龍谷大学） |
| 参加人数 | 15 名                                                                                    |

| グリーフケア講座 |                                           |
|----------|-------------------------------------------|
| テーマ      | 傾聴のコツ: 話を「否定せず、遮らず、拒まず」                   |
| 開催日時     | 2024 年 7 月 9 日（火）15:15～16:45              |
| 開催場所     | 龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室                       |
| 講 師      | 金田諦應（カフェデモンク主宰）                           |
| 司 会      | 鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）                           |
| 主 催      | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター |
| 参加人数     | 15 名                                      |

| グリーフケア講座 |                                           |
|----------|-------------------------------------------|
| テーマ      | スピリチュアルケア                                 |
| 開催日時     | 2024 年 7 月 17 日（水）13:30～17:45             |
| 開催場所     | 龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室                       |
| 講 師      | 谷山洋三（東北大学大学院文学研究科教授）                      |
| 司 会      | 森田敬史（龍谷大学文学部教授）・鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）           |
| 主 催      | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター |
| 参加人数     | 15 名                                      |

| 特別講義 |
|------|
|------|

|      |                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ  | 実践真宗学のフロンタライン                                                                    |
| 開催日時 | 2024 年 10 月 9 日（水）11：00～12：30                                                    |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室                                                               |
| 講 師  | 長尾菜摘（実践真宗学研究科 2 年・臨床宗教師研究生）<br>長岡阿衣瑠（実践真宗学研究科 2 年・ハワイにおける国際伝道研究生）<br>鍋島直樹（文学部教授） |
| 主 催  | 龍谷大学大学院実践真宗学研究科                                                                  |
| 協 力  | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター                                   |
| 参加人数 | 145 名                                                                            |

| 特別講義 |                                                |
|------|------------------------------------------------|
| テーマ  | 親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して                              |
| 開催日時 | 2024 年 11 月 20 日（水）11:00～12:30                 |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室                             |
| 講 師  | 上杉智英（京都国立博物館主任研究員）                             |
| 主 催  | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター |
| 協 賛  | 文学研究科真宗学専攻、実践真宗学研究科                            |
| 参加人数 | 172 名                                          |

| 新書発表会   |                                                                                                                                               |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ     | Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World<br>（中国の国際主義における関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の再発見） |
| 開催日時    | 2024 年 11 月 22 日（金）17:00～18:30                                                                                                                |
| 開催形態    | オンライン（Zoom）                                                                                                                                   |
| 講 師     | Chih-yu Shih（Professor, School of Political Science & International Relations, Tongji University）                                             |
| コメンテーター | Ekaterina Koldunova（Associate Professor, Asian and African Studies Department, MGIMO University）                                              |

~~~~~

	Olivia Umurerwa Rutazibwa (Assistant Professor, Department of Sociology, London School of Economics and Political Science)
	Jungmin Seo (Professor, Department of Political Science and Diplomacy, Yonsei University)
	Kosuke Shimizu (Professor & Dean, Faculty of International Studies, Ryukoku University)
司 会	Ching-Chang Chen (Professor, Faculty of International Studies, Ryukoku University)
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 グローバル・アフェアーズ研究センター

ディスカッション形式講演会	
テーマ	幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第2弾 「働くージェンダーと重圧・社会進出について」
開催日時	2024年11月26日(火) 13:30~15:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室
講 師	幾田桃子・千々松由貴
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 ジェンダーと宗教研究センター
協 賛	龍谷學會
参加人数	24名

グリーフケア講座	
テーマ	ビハラー活動ー物語を紡ぐー
開催日時	2024年12月11日(水) 11:00~12:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼101教室
講 師	新堀慈心(あそかビハラー病院緩和ケア看護課長、浄土真宗本願寺派僧侶)
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
協 力	実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム
参加人数	125名

シンポジウム	
テーマ	システム論から考えるスクールカウンセリング
開催日時	2025 年 3 月 23 日（日）10:00 ～13:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 301 教室
講 師	村上雅彦（広島ファミリールーム）
シンポジスト	荒井久美子（京都府・京都市スクールカウンセラー） 西山達二（滋賀県スクールカウンセラー） 大石直子（灘中学校・灘高等学校スクールカウンセラー）
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 社会的孤立回復支援班

2024 年度 国際研究部門 研究活動一覧表

研究セミナー	
テーマ	ジェンダーの視点で語る仏教者による社会実践
開催日時	2024 年 5 月 17 日（金）17:00～19:20
開催場所	龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール／Zoom 併用
プログラム	基調講演：「積極的平和の実践：ジェンダー平等と社会的包摂の行動」 アンチャリー・クルターチ（エンゲージド・ブuddhist国際ネットワーク（INEB）プログラムマネージャー） 活動報告： 三善恭子（公益財団法人世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会総務部長） 枝木美香（認定 NPO 法人アユス仏教国際協力ネットワーク事務局長） ラングナー寺本・ベッティーナ清真氏（浄土真宗本願寺派極楽寺衆徒、建築家） ディスカッション： 島藺進（東京大学名誉教授、龍谷大学客員教授） 嵩満也（龍谷大学教授）
ファシリテーター	嵩満也
コメンテーター	島藺進
主 催	現代仏教の社会倫理に関する研究会
共 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター国際研究部門・エンゲイジド・ブuddhist研究学会
協 力	龍谷大学大学院実践真宗学研究科・龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門ジェンダーと宗教研究センター
参加人数	27 名

シンポジウム	
テーマ	他力本願—他者を通して大悲心に生かされる—
開催日時	2024 年 5 月 22 日（水）11:00～12:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
講演者	Mark Ty Unno (University of Oregon Professor of Religious Studies, Religious Studies, Department Head)
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 応用研究部門&国際研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
協 力	日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費 「臨床宗教師のケア— 現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研 究代表者 鍋島直樹（龍谷大学）
参加人数	150 名
備 考	本シンポジウムの概要については、応用研究部門の項を参照のこと。

国際ワークショップ／沼田研究フェロー講演会	
テーマ	浄土真宗、ハンセン病、近代日本における「死者の市民権」
開催日時	2024 年 6 月 10 日（月）15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／Zoom 併用
講演者	ジェシカ・スターリング (ルイス・アンド・クラーク大学 宗教学科長・准教授)
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際研究部門
参加人数	17 名

特別講義	
テーマ	地域に開かれた寺院
開催日時	2024 年 6 月 11 日（火）15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 北翼 105 教室

~~~~~

|     |                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講演者 | 柱本 惇（龍谷大学文学部非常勤講師、浄土真宗本願寺派布教師・明覚寺住職、元あそびハーラ病院ビハーラ僧）                                            |
| 主 催 | 龍谷大学世界仏教文化研究センター 応用研究部門&国際研究部門<br>人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター                                       |
| 協 力 | 日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費 「臨床宗教師のケアー<br>現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研<br>究代表者 鍋島直樹（龍谷大学） |
| 備 考 | 本シンポジウムの概要については、応用研究部門の項を参照のこと。                                                                |

| 国際ワークショップ |                                          |
|-----------|------------------------------------------|
| テーマ       | 現代日本の仏教寺院—宗教的廃棄物、再利用、そして活性化—             |
| 開催日時      | 2024 年 6 月 13 日（木）15:15～16:45            |
| 開催場所      | 龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／Zoom 併用              |
| 講演者       | ヤアン・ボーロブ<br>（オーフス大学（デンマーク）文化社会学部・宗教学科教授） |
| 司 会       | 那須英勝（龍谷大学教授）                             |
| 主 催       | 龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際研究部門                  |
| 参加人数      | 11 名                                     |

| 国際ワークショップ |                                                                                                                                                                                                              |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ       | 第 13 回『歎異抄』ワークショップ                                                                                                                                                                                           |
| 開催日時      | 2024 年 6 月 28 日（金）～30 日（日）                                                                                                                                                                                   |
| プログラム     | 龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室、西翼 3 階小会議室、清和館 3 階会議<br>室、東翼 202 教室（公開セミナーは西翼 2 階大会議室）                                                                                                                                   |
| 講演者       | 6 月 28 日（金）<br>10:00-11:00 Introduction, Discussion of the Aims of the Workshop<br>11:00-12:00 Small Group Translation Session 1<br>12:00-13:00 Lunch Break<br>13:00-14:30 Small Group Translation Session 2 |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 14:30-14:50 Break Time<br>14:50-17:00 Small Group Translation Session 3<br><br>6月29日(土)<br>10:30-12:00 公開セミナー「Re-examining Shinran's words in <i>Tannishō</i> , 7: The one path unimpeded / mugéno ichidō」(『歎異抄』第七条における親鸞の言葉の再検討―無礙の一道を中心に) ウェイン・シゲト・ヨコヤマ<br>12:00-13:00 Lunch Break<br>13:00-14:30 Presentation Session<br>14:30-14:50 Break time<br>14:50-17:00 Small Group Translation Session 4<br><br>6月30日(日)<br>10:00 Morning Assemble Venue<br>10:00-12:00 Small Group Translation Session 5<br>12:00-13:00 Lunch Break<br>13:00-14:30 Small Group Translation Session 6<br>14:30-14:50 Break time<br>14:50-17:00 Presentation of small group translations and plans for the next workshop |
| 主 催  | 龍谷大学世界仏教文化研究センター<br>大谷大学真宗総合研究所<br>The Centers for Japanese Studies and Buddhist Studies at the University of California, Berkley                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 参加人数 | 6月28日 19名、6月29日：24名、6月30日：17名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

| 国際ワークショップ |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| テーマ       | 現代の日本仏教における社会の分断化と地域社会へのアウトリーチ活動 |
| 開催日時      | 2024年7月4日(木) 15:15～16:45         |
| 開催場所      | 龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室／Zoom 併用        |
| 講演者       | エリザベッタ・ポルク (ケープタウン大学 南アフリカ共和国)   |
| コメンテーター   | ウゴ・デッシ (ウィーン大学・宗教学部 専門研究員)       |
| 主 催       | 龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際研究部門          |

|      |      |
|------|------|
| 参加人数 | 13 名 |
|------|------|

| 第 20 回国際真宗学会大会公開記念講演会 |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| テーマ                   | 『往生要集』における浄土信仰の諸問題            |
| 開催日時                  | 2024 年 9 月 28 日（土）15:30～16:30 |
| 開催場所                  | 龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール／Zoom 併用   |
| 講演者                   | ロバート・F・ローズ（大谷大学名誉教授）          |
| 司 会                   | 嵩満也（龍谷大学教授）                   |
| 共 催                   | 国際真宗学会・龍谷大学世界仏教文化研究センター       |
| 参加人数                  | 48 名                          |

| ワークショップ |                                                     |
|---------|-----------------------------------------------------|
| テーマ     | 初期イスラーム社会のセクシュアリティとクィア研究<br>—LGBTQ「受容」に向けたイスラームの試み— |
| 開催日時    | 2024 年 12 月 21 日（土）14:00～17:00                      |
| 開催場所    | 龍谷大学大宮学舎 東翼 204 教室／Zoom 併用                          |
| 講演者     | 辻大地（東京都立大学人文社会学部助教）                                 |
| レスポデント  | 宇治和貴（筑紫女学園大学人間科学部教授）                                |
| 司 会     | 那須英勝（龍谷大学教授）                                        |
| 主 催     | 龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際研究部門                             |
| 共 催     | クィア仏教学研究会                                           |
| 参加人数    | 17 名                                                |

|        |                                         |
|--------|-----------------------------------------|
| シンポジウム |                                         |
| テーマ    | 三大宗教の実践的対話に向けて<br>—イスラームとキリスト教・仏教の比較考察— |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時  | 2025 年 3 月 1 日（土）10:30～17:40                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 開催場所  | 龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／Zoom 併用                                                                                                                                                                                                                                                         |
| プログラム | <p>講演 1：「現代マレーシアにおける仏教とイスラームをめぐる言説：マレー系ムスリムの宗教研究者の見解を中心に」<br/> 小布施祈恵子（マッギル大学客員研究員、神戸市外国語大学客員研究員）</p> <p>講演 2：「イスラームとユダヤ・キリスト教—モーセの例から」<br/> アリー・テミーゼル（セルチュク大学文学部教授）</p> <p>講演 3：「キリスト教と仏教」<br/> 鶴岡賀雄（東京大学名誉教授）</p> <p>講演 4：「イスラームとネオ・プラトニズム」<br/> セピーデ・アフラーシュテ（日本学術振興会外国人特別研究員）</p> |
| 主 催   | 龍谷大学国際社会文化研究所                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 共 催   | 龍谷大学世界仏教文化研究センター                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加人数  | 46 名                                                                                                                                                                                                                                                                                |

| 国際ワークショップ |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ       | 第 14 回 歎異抄ワークショップ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 開催日時      | 2025 年 3 月 7 日（金）～9 日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 開催場所      | 浄土真宗センター、2140 Durant Avenue, Berkeley, California                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| プログラム     | <p>3 月 7 日（金）<br/> 10:00-11:00 Introduction, Discussion of the Aims of the Workshop<br/> 11:00-12:00 Small Group Translation Session 1<br/> 12:00-13:00 Lunch Break<br/> 13:00-14:30 Small Group Translation Session 2<br/> 14:30-14:50 Break Time<br/> 14:50-17:00 Small Group Translation Session 3</p> <p>3 月 8 日（土）<br/> 10:30-12:00<br/> 12:00-13:00 Lunch Break<br/> 13:00-14:30 Presentation Session<br/> 14:30-14:50 Break time</p> |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 14:50-17:00 Small Group Translation Session 4<br><br>3 月 9 日（日）<br>10:00 Morning Assemble Venue<br>10:00-12:00 Small Group Translation Session 5<br>12:00-13:00 Lunch Break<br>13:00-14:30 Small Group Translation Session 6<br>14:30-14:50 Break time<br>14:50-17:00 Presentation of small group translations and plans for the next workshop |
| 主 催 | 龍谷大学世界仏教文化研究センター<br>大谷大学真宗総合研究所<br>Center for Japanese Studies and Buddhist Studies, University of California, Berkley                                                                                                                                                                                                                         |

| E-Journal |                                                                                  |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 雑誌名       | Journal of World Buddhist Cultures Vol.8                                         |
| 募集期間      | 2024 年 6 月 11 日（火）～ 2024 年 9 月 27 日（金）                                           |
| 掲載内容      | 学術論文 2 本、書評 1 本                                                                  |
| 編集        | Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University, Editorial Board |
| 発行者       | Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University                  |
| 発行        | 2025 年 3 月 7 日（金）                                                                |



---

# 2024 年度 主要研究活動 概要

---





## ❖ 基礎研究部門 ❖

### 研究セミナー

## 戦前期本願寺派のアジア布教—パネル展示に寄せて—

2024 年 5 月 13 日（月）17:00～18:30  
オンライン開催（Google Meet）



研究セミナー（上）、パネル展示（下）の様子

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

龍谷大学世界仏教文化研究センター 仏教史・真宗史総合研究班（代表：中西直樹）、および「明治期におけるトランスナショナルな日本仏教の諸相とその動向」研究会（代表：嵩満也）の共催で、龍谷大学大宮学舎東翼1階ロビーにて、パネル展示「戦前期本願寺派のアジア布教」（2024年5月1日（水）～5月26日（日））、「海を越えた真宗一本願寺派北米布教への道のりー」（2024年9月23日（月）～10月6日（日））が開催された。展示会の趣旨説明を兼ねて、2024年5月13日（月）、中西直樹氏（龍谷大学教授）による研究セミナーがGoogle Meetを通じてオンラインで行われた。

戦前期における本願寺派のアジア布教は、日本のアジアへの侵略戦争と密接に関連しながら進行したため、敗戦後にその布教拠点のほとんどが失われた。また、戦後混乱期に係る資料が破棄・散逸され、その布教活動の実態に不明な点が少なくない。パネル展示「戦前期本願寺派のアジア布教」では、戦前のアジア布教に関して、当時の写真や資料をパネルにして、その歩みを振り返りながら、戦前の布教活動の検証と、これからのアジアへの布教の在り方を考えることを目的とする。

一方、本願寺派が北米布教に着手するまでには、さまざまな困難に直面した。早くも1888年、本願寺派普通教校に設立された海外宣教会は、欧米の仏教者と交流し、海外布教の方途を模索していた。その後も、幾度か布教計画が立てられたが、容易に実現しなかった。パネル展示「海を越えた真宗一本願寺派北米布教への道のりー」は、北米布教125年を迎えるにあたり、本願寺派の北米布教着手に至る軌跡をたどるとともに、初期の布教状況を紹介するものである。

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

国際ワークショップ

『心性罪福因縁集』とは何か

2024 年 5 月 27 日（月）13:00～17:00

龍谷大学大宮学舎清和館 3 階会議室／オンライン開催（Zoom）

---



会場の様子

## ❖ 概 要 ❖

2024年5月27日（月）に、龍谷大学世界仏教文化研究センター基礎研究部門と、JSPS 科研費基盤研究（A）「宗教テキスト文化遺産アーカイブス創成学術共同体による相互理解知の共有」（22H00005）の共同主催で、国際ワークショップ『心性罪福因縁集』とは何かが開催された。本ワークショップは、同年7月7日に行われる国際研究集会『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響の、予備的な集会として行われた。

前半では、『心性罪福因縁集』に関する基礎的な研究報告として、吉原浩人（早稲田大学教授・同総合研究機構日本宗教文化研究所所長）による「呉越・北宋の浙江仏教と『心性罪福因縁集』」、および崔鵬偉（龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員）による『心性罪福因縁集』の説話構造と依拠資料が行った。休憩をはさんで後半では、中世禅宗思想史の深い知見を持つステフェン・デル（ハンブルク大学教授）教授が、前半の報告に対して多角的なコメントと質問をした。聴衆を交えながら、一時間に及ぶ質疑応答が行われて、『心性罪福因縁集』の研究に大きな進展と展望を与えることができた。



質疑応答の様子

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

沼田研究奨学金受給者講演会

仏教における身体と環境の哲学  
— 『転法輪経』と『無我相経』を中心に—

2024 年 6 月 13 日 (木) 13:30～17:00

龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール

---



サントゥン 氏、三谷 氏

## ❖ 概 要 ❖

2024年6月13日（木）に、「Philosophy of Body and Environment in Buddhism with special reference to Dhammacakkappavattana Sutta and Anattalakkhaṇa Sutta（仏教における身体と環境の哲学—『転法輪経』と『無我相経』を中心に—）」と題する講演会が開かれた。講師は、ミャンマーにあるダンマドゥータチェーキンダ大学(Department of Buddhist Philosophy, Dhammaduta Chekinda University, Myanmar)のサントウン教授（Professor San Tun）で、司会進行は本学教授の三谷真澄氏がつとめた。

講演では、パーリ經典の『転法輪経』と『無我相経』を参照しながら、仏教処世法（Buddhist art of living）において身体と環境の相互的依存関係の理解に資するため、なぜ仏教処世法が「慈悲と智慧」の中で、「我・我処（私のもの）」を排除した哲学的処世法といえるのかという課題をめぐって論を展開した。



会場の様子

---

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

---

---

研究会

大乘莊嚴經論の梵本をめぐる近況とその周辺

2024 年 6 月 14 日 (金) 15:15～16:00

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

龍谷大学大宮キャンパスでは 2024 年 6 月 14 日 (金) に「大乘莊嚴經論の梵本をめぐる近況とその周辺—ポタラ宮所伝の新出貝葉写本ほか—」と題する公開研究会が開かれた。発表者は加納和雄氏 (駒澤大学准教授)・李学竹氏 (中国チベット学研究センター研究員) で、司会進行は本学教授の能仁正顕氏がつとめた。今回の研究会では、加納氏と李氏が調査を進めているポタラ宮所伝の新出『大乘莊嚴經論』写本について、すでに発見された写本との比較を通して内容を紹介した。

まず加納氏は、今までに発見された『大乘莊嚴經論』の写本および関連する注釈書を紹介し、それぞれの資料が発見された地理的・時代的關係性について説明した上で、今回発見されたポタラ宮写本は、文字等の形状からおそらくカトマンズで作成



加納氏 (中央)、李氏 (右画面)

されたものと述べる。また、ポタラ宮写本によってもたらされる成果として、これまで発見された写本の欠落箇所梵文が回収できることと、従来発見されていた写本の異読を回収できることの2点をあげ、今後期待される研究進展の方向性についても指摘した。このほかにも、ポタラ宮写本と同じ函に所蔵されていた詳細不明の3つのテキストについても言及し、その中の1つが『大乘莊嚴經論』の冒頭部の破損を補うために追加で写された写本であることを紹介した。ほかの2つについても、現在解析を進め、これらの写本が同一の函に納められていた理由についても検討すると述べた。

また、共同研究者である李氏もオンラインで参加し、加納氏の発表にコメントした。李氏は、ポタラ宮写本の由来について、1950 から 60 年代にゴル寺とシャル寺からラサに写本を集めていたことと関係することを指摘した。また、李氏の所属する中国チベット学研究センターにも『大乘莊嚴經論』の写本が存在するため、それらの写本が他の写本とどのような関係性にあるのか調査を継続していくと述べた。

講演後、参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。今回の研究会を通して、『大乘莊嚴經論』のテキスト研究やそのテキストが置かれた周辺情報に関する問題の解決のために、研究者の国際的な相互交流の重要性が再確認された。



記念写真



❖ 基礎研究部門 ❖

国際研究集会

『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響

2024 年 7 月 7 日（日）10:00～17:00

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室



質疑応答の様子

## ❖ 概 要 ❖

2024年7月7日（日）に、龍谷大学世界仏教文化研究センター（RCWBC）基礎研究部門と早稲田大学総合研究機構日本宗教文化研究所（以下早大宗文研）との合同主催で、龍谷大学大宮学舎にて、国際研究集会『心性罪福因縁集』の成立基盤とその影響」が開催された。集会は基調講演3本（午前の部）および研究発表5本（午後の部）からなる。それぞれの概要は下記の通りである。

吉原浩人（早稲田大学文学学術院教授・同所長）が基調講演『心性罪福因縁集』研究の現状と課題—宝誌説話を例に一—において、『心性罪福因縁集』の最新の研究成果・現在の研究課題を紹介し、本集に収録される宝誌の説話4話の共通構造を分析した。

李銘敬（中国人民大学教授・早大宗文研招聘研究員）が基調講演「五代・北宋の仏教説話集と日本への影響」において、日本成立の『心性罪福因縁集』と同時代の中国において、どのような説話が流布していたのか、またそれが『心性罪福因縁集』所収説話との関連や、現在の研究状況などを含めて概観した。

阿部泰郎（名古屋大学名誉教授・RCWBC 招聘研究員・早大宗文研招聘研究員）が基調講演「創作説話集としての『心性罪福因縁集』—西行仮託『撰集抄』から読み直す—」において、『心性罪福因縁集』と『撰集抄』の、多元的共通点を検出することによって、前者を踏まえて、後者が創り出されたという仮説を提示した。

崔鵬偉（RCWBC 博士研究員・早大宗文研招聘研究員）が研究発表『心性罪福因縁集』における『宗鏡録』の受容」において、『心性罪福因縁集』巻中第八話における『宗鏡録』の受容を中心に考察することによって、『心性罪福因縁集』の成立には、永明延寿『宗鏡録』をはじめ、宋代の文献も関係していることを証明した。

八木徳俊（早大宗文研 RA）が研究発表『心性罪福因縁集』における「理觀念仏」において、事・理の念仏が説かれている『心性罪福因縁集』上巻第七話「念仏」について、その理觀念仏に焦点を当てて、それが中国趙宋天台外派の思想との関連を考察した。

松尾善匠（東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程・早大宗文研研究補助者）が研究発表『心性罪福因縁集』における「事念仏」と永観への影響」において、『心性罪福因縁集』上巻第七話「念仏」の事念仏に焦点を当てて、それが平安後期の三論僧永観に与えた影響を『往生拾因』等との比較によって整理した。

田中亜美（早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程・早大宗文研 RA）が研究発表『心性罪福因縁集』下巻「法崇和尚誠弟子語」における不動真言」において、不動明王信仰に関

する儀軌や説話等との比較から、不動真言に関する『心性罪福因縁集』下巻第二話の記述がどのように形成されたのか、また当該話および『心性罪福因縁集』全体において不動真言はどのような意味を持つのかについて報告した。

櫻本香織（早稲田大学文化構想学部助手・早大宗文研研究所員）が研究発表「『心性罪福因縁集』上巻「打囲碁二老僧」における『忘憂清楽集』の影響」において、院政期には、北宋に編纂された現存最古の囲碁の理論書『忘憂清楽集』にも収載される、古代から唐、あるいは宋代に至るさまざまな時代の囲碁に関する書物が断片的に伝来し、『心性罪福因縁集』巻上第二話に受容された仮説を提示した。

最後に、柳幹康（東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所副所長）がコメンテーターとして、3本の基調講演、および5本の研究発表に対して、多角的なコメントと質問を行った。『心性罪福因縁集』の撰者は永明延寿に仮託されているが、はたして延寿の思想と接点はあるのか、柳准教授のコメントにより、かなり見えてきた部分があった。



会場の様子

❖ 基礎研究部門 ❖

特別講演会

東アジア仏教における韓国仏教の特質  
—華嚴思想を中心に—

2024 年 7 月 18 日 (木) 17:00～18:15

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

❖ 概 要 ❖

龍谷大学大宮キャンパスでは 2024 年 7 月 18 日 (木) に「東アジア仏教における韓国仏教の特質—華嚴思想を中心に—」と題する特別講演会が開かれた。講演者は金天鶴氏（韓国・東国大学校教授）で、司会進行は本学准教授の野呂靖氏がつとめた。今回の講演会では、金氏がかねてより研究を進めていた韓国の華嚴思想について、東アジア仏教という国際的な関係性の観点から内容を紹介した。

まず金氏は、従来の仏教研究が仏教流伝の過程を中国から韓国、韓国から日本へと伝わったとする一方向的な流れによって説明していることに注意し、文化や思想の流れは巡回を含めて考えるべきであると述べる。そして、韓国仏教の思想史を①元暁、②義相、③元暁・義相以後（統一新羅時代）、④高麗・朝鮮時代の 4 つに区分し、それぞれの人物や時代にお



金 氏

けるキーワードを紹介しながら特徴を説明した。また、韓国華嚴の流れは、理論的な完結性を通じて華嚴の普法に導く元暁の教学と、特殊概念を創出し展開しながら形成された実践的な義相学派という 2 つの柱からなっており、その後の人々も 2 つの柱を中心としつつ、他思想との融合や日本仏教との交流の中で思想を展開したと評価する。

講演後、参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。特に元曉・義相以降の韓国華嚴については、新しい思想の萌芽が見えないが、元曉・義相の教学をいかに継承していくかという課題に重きが置かれ、仏教の教判論等の課題と元曉・義相の教学の関係を結びつけていく傾向が見られると説明された。会場では、韓国華嚴の流れを包括的に把握した上で中国や日本の仏教思想史を学んでいく必要性が再確認された。



会場の様子

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

公開研究会

三業惑乱裁定過程の更なる究明に向けて

2024 年 8 月 20 日 (火) 17:00～18:30

龍谷大学大宮学舎 南翼 105 教室

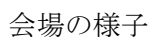
---



上野 氏

\_\_\_\_\_

上野氏はまず、三業惑乱に関する近年の研究を振り返りつつ、基礎資料の所在と利用環境の整備について言及した。次いで、西本願寺・幕府役人の記録をもとに三業惑乱の裁定過程を追求し、政教関係論に繋げていく際の論点の一つに、教学統制権の帰属問題を取り上げた。教学統制・宗意判定は各宗派（本山）が担うとしても、幕藩領主支配下での教団存立に適合的な方向性が、教学レベルでも潜在的に付与される問題や、教学統制・宗意判定権の本山（機関としての門主）への帰属と、幕府寺社奉行所の不関与と関わることを強調した。最後に、課題として、信頼性の高い史料をもとに三業惑乱裁定の実態を追求する必要があること、また三業惑乱に関する様々な認識・情報の展開（実態と異なる場合がある）についても検討する予定があることを提言した。



---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

ワークショップ

真宗学と談義本（勸化本）  
—殿内先生にご教示を仰ぐ研究談話会—

2024 年 9 月 7 日（土）14:30～16:00

龍谷大学大宮学舎 西翼 3 階小会議室

---



殿内 氏

## ❖ 概 要 ❖

2024 年 9 月 7 日（土）に、龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門古典籍資料総合研究班「龍谷大学大宮図書館所蔵近世勸化本選集の作成をめざす研究」主催、「真宗学と談義本（勸化本）」と題するワークショップが開かれた。講師は殿内恒氏（龍谷大学教授）で、司会は和田恭幸氏（龍谷大学教授）がつとめた。

「殿内先生にご教示を仰ぐ研究談話会」という副題の通り、まず司会の和田氏より、日本文学研究における「談義本（説教本／勸化本）」の定義や研究傾向を紹介したうえ、講師の殿内氏に真宗学における「談義（本）」のイメージや取り扱い方などについて問いかける。それを受けて、殿内氏は「談義」がはっきり定義されてこなかったことを指摘し、「勸化」「談義」の用例を通して、仏教語としての「談義」の捉え方、また安居「会読」とのかかわりについて説明した。最後に、「伝道学」の視座から、龍谷大学真宗学科における教育課程の展開を実例として、布教現場ともかかわり、「談義本」研究への期待を述べた。質疑応答では、真宗各派における用語理解の差異が取り上げられて、活発な意見交換が行われた。



会場の様子

---

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

---

---

講演会

**Buddhist Culture of the Silk Road: On the Printed Old Uyghur Abhidharma Texts in Japan and the German Turfan Collection**

2024 年 9 月 27 日 (金) 13:30～15:00

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

2024 年 9 月 27 日 (金)、龍谷大学大宮キャンパスで “Buddhist Culture of the Silk Road: On the Printed Old Uyghur Abhidharma Texts in Japan and the German Turfan Collection” と題する国際学術講演会が開かれた。講演者はアブドゥルシッド・ヤクップ氏で、龍谷大学と長年共同研究をおこなってきたドイツ・ベルリンブランデンブルク州立科学アカデミーのトルファン研究所の元所長で、本学古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センターの客員研究員でもある。

司会進行を古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センターの荻原裕敏氏、講師紹介を本学教授の三谷真澄氏がつとめた。

ヤクップ氏は、1 か月間の京都滞在で、本学大宮図書館ほか、天理大学附属天理図書館や藤井有鄰館に所蔵される版本資料の実見調査の途上にあり、今回の講演会では、ヤクップ氏が研究を進めている古代ウイグル語によって書かれた文献、特に印刷されたテキストを取り上げ、世界各国に分蔵される同種の文献の内容を紹介していただいた。



ヤクップ 氏 (左)

ヤクップ氏は現在「北方シルクロードにおける古代ウイグル人の印刷物と印刷文化」と題したプロジェクトを進めており、その調査によって明らかとなった龍谷大学大宮図書館所蔵資料を中心とした成果も反映した内容となった。

ヤクップ氏の調査によると、ベルリンのトゥルファン・コレクション、約 8000 点の古代ウイグル語断片の内、約 12%、1000 点余りが版本に分類されるという。また、これらの版本の内容は、仏教文献、特に密教関係・中国撰述仏典（いわゆる偽経）が大部分を占めるが、大乘仏教及び部派仏教の文献も若干存在する。これらの他に、暦の断片が 2 点存在することは、注目に値する。版本の概要に続いて、古代ウイグル語文献に見られる「十二縁起」を表す諸形式を例に、古代ウイグル仏教における仏教術語受容の問題を論じた。ヤクップ氏は、アビダルマ文献に関連づけられる版本に見える「十二縁起」の記述に注目し、初期から後期に至る古代ウイグル語文献に調査範囲を拡張、版本を含む後期の古代ウイグル語文献に見られる「十二縁起」に対応する形式が、初期及び中期の古代ウイグル語文献に見られる形式に基づいていることを指摘した。

講演後、参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。特に古代ウイグル語文献の編纂者や版本の製作地に関する議論が盛んに行われ、各国に散在するコレクションの調査を協力しながら進めていく必要性が再認識された。

❖ 基礎研究部門 ❖

研究セミナー

研究分野横断的研究プログラム  
「過疎地域伝道実践研究プロジェクト」  
(研究代表：葛野洋明)

2024 年 10 月 6 日(日)～2025 年 2 月 26 日(水)

龍谷大学大宮学舎

❖ 概 要 ❖

「過疎地域伝道実践研究プロジェクト」は、日本の人口減少に伴う過疎地寺院の運営状況の悪化を危惧した研究者によって組織され、地方寺院の実際のあり方や過疎地寺院の運営方法を共有する目的のもと採択された。2024 年度は各研究員の調査結果や実際に活動されている講師を招致して、4 回の公開研究セミナーが実施された。以下公開された研究セミナーの概要を示す。

2024 年 10 月 6 日(日)

第一部【講演会】「災害ボランティアと仏教―東日本大震災に学ぶ―」

藤丸智雄氏（浄土真宗本願寺派 源照寺住職）

第二部【ディスカッション】「お寺を軸とする地域のつながりが減災となる可能性」

藤丸智雄氏、楠淳澄氏（龍谷大学文学部教授）



ディスカッションの様子

2024 年 12 月 27 日（金）

- ・研究セミナー「過疎地のお寺の伝道活動―新たな伝道手段を用いて―」

プログラム

講題① 「LINE 公式を用いた門信徒との信頼関係の築き方」

講演者 木賣慈教氏（浄土真宗本願寺派 西敬寺住職）

講題② 「ローカル寺院のオープンデータ化―Wikipedia を活用する―」

講演者 桂まに子氏（京都女子大学講師）

講題③ 「SNS を用いた伝道の力」

講演者 松崎智海氏（浄土真宗本願寺派 永明寺住職）

ディスカッション 木賣慈教氏、桂まに子氏、松崎智海氏、長岡岳澄氏（中央仏教学院講師）

2025 年 1 月 14 日（火）

- ・研究セミナー「過疎被災地としての奥能登真宗寺院の復興活動―蓮如道中を奥能登へ―」

講演者 太田浩史氏（となみ民藝協会会長・日本民藝協会常任理事

・真宗大谷派大福寺住職）

司会 楠淳證氏（龍谷大学文学部教授）

2025 年 2 月 26 日（水）

- ・研究セミナー「過疎地のお寺の伝道活動―過疎地の伝道を考える―」

プログラム

講題① 「寺院のアライアンス化による伝道力の教化」

講演者 杉山雲来氏（本願寺派布教使）

講題② 「新しい法座の開催方法」

講演者 若林唯人氏（中央仏教学院講師）

ディスカッション 杉山雲来氏、若林唯人氏、楠淳證氏（龍谷大学文学部教授）

葛野洋明（龍谷大学大学院実践真宗学研究科特任教授）

いずれの研究セミナーも参加者を交えて活発な質疑応答がおこなわれた。今後は本年度と同じく 4 回の公開研究セミナーを開催することが予定されており、過疎地域における寺院のあり方を巡って活発な議論を展開することが期待される。

❖ 基礎研究部門 ❖

研究会

中世真宗における聖教の形成  
—覚如著作の書写・伝授・集録を通して—

2024 年 12 月 6 日（金）15:30～17:00

龍谷大学大宮学舎 北翼 106 教室

❖ 概 要 ❖

龍谷大学大宮キャンパスでは 2024 年 12 月 6 日（日）に「中世真宗における聖教の形成—覚如著作の書写・伝授・集録を通して—」が開かれた。講師は富島信海氏（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）で、司会進行は本学教授の高田文英氏がつとめた。今回の研究会では、富島氏が調査を進めている覚如著作の伝授と聖教化について、覚如の周辺人物の動向などを通して紹介した。

まず富島氏は、本題を覚如著作としたことについて、覚如の著作の大半が門弟たちに書与され、奥書も多く残存するため伝授の過程が把握しやすく、没後まもなく制作された伝記にて集録されているという特徴を指摘する。特に覚如の伝記である『慕帰絵』の作者従覚と『最須敬重絵詞』の作者乗専は、覚如の存命中にも数多くの覚如著作を書写しており、作成した伝記にもそれら



富島 氏

の著作をまとめて記述するなど覚如著作の聖教化に大きく貢献した人物として紹介された。

また、覚如著作の奥書や『慕帰絵』『最須敬重絵詞』からは、書与や伝授を意識した記述が多く見られ、専修念仏を正しく伝授したとする法然—親鸞—如信の血脈が覚如だけでなく覚如周辺の人物によって構築されていったと述べた。さらに、聖教の伝授を媒介とする後継者への正統化は、示寂した覚如自身にもなされ、その正統化の一端が『慕帰絵』『最須敬重絵詞』における覚如著作の聖教化であったと富島氏は指摘した。

講演後、参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。特に従覚や乗専が何を意識して覚如の伝記を作成したのかという問題について、富島氏は依然不明な部分の多い本願寺周辺の事情を考慮すべきであると注意した。また、聖教化についても、ある時代に突如聖教化したわけではないため、そのプロセスについても今後検討されるべき課題であることを問題提起した。



質疑応答の様子

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

ワークショップ

中世延暦寺における論義—三周義を中心に—

2025 年 1 月 23 日 (木) 16:00～17:30

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室



長谷川 氏



## ❖ 概 要 ❖

2025 年 1 月 23 日（木）に、龍谷大学世界仏教文化研究センター 大蔵経総合研究班主催、「中世延暦寺における論義—三周義を中心に—」と題するワークショップが開かれた。講師は長谷川裕峰氏（叡山学院准教授）で、司会は吉田慈順氏（天台宗典編纂所編集員・龍谷大学非常勤講師）で、ファシリテーターは道元徹心（龍谷大学教授）がつとめた。

長谷川氏はまず、比叡山延暦寺で現在行っている法華大会に含まれる論義の様子を紹介し、中世延暦寺で行われていた論義との異同を説明した。次いで、中世延暦寺における論義を研究するための方法論と研究対象に言及し、とりわけ文献主義に立つ証真学派の教学を確認できる貴重な作品『阿弥陀房抄』を取り上げ、本書の構造や三周義をめぐる出題の所依論疏の解明を通して、後世の論義書との比較から証真学派の特色を浮かび上がらせることという次の段階の課題などを提示した。



質疑応答の様子

❖ 基礎研究部門 ❖

研究セミナー

北斉時代における阿弥陀浄土信仰の興起  
—石刻資料からの分析—

2025 年 2 月 5 日（水）15:15～16:45  
龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

❖ 概 要 ❖

龍谷大学大宮キャンパスでは 2025 年 2 月 5 日（水）に「北斉時代における阿弥陀浄土信仰の興起—石刻資料からの分析—」が開かれた。講師は倉本尚徳氏（京都大学人文科学研究  
所准教授）で、コメンテーターは本学准教授の内田准心氏、司会進行は本学非常勤講師の都  
河陽介氏がつとめた。今回の研究セミナーでは、倉本氏が調査を進めている中国石刻研究の  
視点から、特に北斉時代に至るまでの阿弥陀浄土信仰の変遷について紹介した。

まず倉本氏は、中国の仏像銘の歴史を分析す  
ると、西方浄土教主の仏名が「無量寿」から「阿  
弥陀」へ変遷していくことを指摘し、特にこの  
変遷が北斉時代に顕著であるとする。その背景  
として西方浄土を説く漢訳経論に使用された仏  
名の影響が考えられ、北魏時代までの訳出経論  
によれば「阿弥陀→無量寿→無量寿・阿弥陀」  
と変遷していくことを説明する。ただし、南朝



倉本 氏

と北朝においては流行する経論が異なっているため、阿弥陀浄土信仰が興起した理由を探  
るには、それぞれの時代や地域においてどのような仏像名や実践が流行したか分析する作

業が必要であることを述べた。さらに倉本氏は、収集した仏像銘や石刻から、南朝においては仏駄跋陀羅・宝雲訳とされる『無量寿経』の影響が中心を占め、一方北朝では『観無量寿経』の影響が複数存在しているという。そして、北朝における『観無量寿経』の流行の背景には、北齊時代に活躍した「禪師」といわれる実践者の存在が関わっており、多くの石窟に『観無量寿経』をモチーフとした「阿弥陀」仏名の仏像・石刻経典が彫刻されたと指摘した。

講演後、参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。特に北齊時代以前に造営された雲崗石窟において阿弥陀三尊像とみられる仏像が多数発見されており、北魏時代から北齊時代における阿弥陀信仰の変遷について今後の研究発展が期待されることが問題提起された。



記念写真

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

公開講演会

古籍を引き継ぐために  
—古籍原本調査研究会活動報告—

2025 年 2 月 14 日（金）14:30～16:40

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---



宮川 氏

## ❖ 概 要 ❖

2025 年 2 月 14 日（金）に、龍谷大学世界仏教文化研究センター 古典籍資料総合研究班 主催、「古籍を引き継ぐために―古籍原本調査研究会活動報告―」と題する講演会が開かれた。講師は宮川真弥氏（天理大学附属天理図書館・司書研究員）で、司会進行は和田恭幸氏（龍谷大学教授）がつとめた。

長谷川氏は、自身の経歴・研究歴や蔵書整理履歴を紹介した上で、己が主宰する古籍原本調査研究会の活動内容や発足契機、それに参考となった研究会の情報などを説明した。とりわけ、古籍原本調査研究会を中心として、研究（生活）上の情報共有、研究者間の交流を図る「古籍善用計画」について、計画の目的と対象・企画事業およびその背景について詳細に語った。従来の研究室組織が担ってきた役割の変化や、若い研究者の原本調査への距離感の発生など、このような文献研究を取り巻く環境の変化に基づいた実践的な支援経験を共有したことに意義が大きい。



質疑応答の様子

---

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

---

研究セミナー

世親の釈軌論  
— 経典を解釈することについて —

2025 年 2 月 20 日（木）15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

龍谷大学大宮キャンパスでは 2025 年 2 月 20 日（木）に「世親の釈軌論—経典を解釈することについて—」が開かれた。講師は上野牧生氏（大谷大学准教授）で、コメンテーターは本学講師の上野隆平氏、司会進行は本学講師の北山祐誓氏がつとめた。今回の研究セミナーでは、上野（牧）氏が解読を進めている世親『釈軌論』に基づく視座から、『浄土論』をめぐる世親の経典解釈方法について紹介した。

まず上野(牧)氏は、『釈軌論』の経典解釈方法に注目し、世親が経典を解釈するにあたって目的・要義・語義・次第・論難答釈の五項目に分けて説明する特徴があることを指摘する。その中でも経典の主題を分節し、各節の目的を導出しようとする要義の項目は、『普賢行願論』『十地経論』にも実例が確認でき、多くの世親著作で適応されている経典解釈方法であった。そし



上野（牧）氏

て、上野(牧)氏は要義の解釈方法が『浄土論』にも適応されており、『浄土論』に説かれる五念門は『無量寿経』を解釈するときの要義であることを主張した。その根拠として五念門や二十九種莊嚴功德成就などには、梵本『無量寿経』と対応する文言があることを指摘し、礼拝・讃嘆・作願・観察・回向の配列も『無量寿経』そのものに依っていると説明された。最後に上野(牧)氏は、世親による解釈の肝は、『無量寿経』五念門からなる実践を勧奨する仏説と受け止める点にあり、従来の研究が指摘するような諸他の瑜伽行派文献に基づき一般的な瑜伽行の実践を『浄土論』に述べたのではないことを指摘し、講演を閉じた。講演後、参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。特にコメンテーターの上野(隆)氏からは、本講演で指摘された梵本『無量寿経』の箇所以外にも、『浄土論』に対応する文章が指摘され大いに議論が盛り上がった。



記念写真

---

❖ 基礎研究部門 ❖

---

---

大蔵経総合研究班・国際学術交流プロジェクト 研究報告会

天台密教経蔵の世界を探る―青蓮院門跡吉水蔵の  
デジタル・アーカイブ創成をめざして―

2025 年 2 月 21 日（金）10:30～12:30

龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール

---



会場の様子



---

## ❖ 概 要 ❖

---

2025 年 2 月 21 日（金）午前、龍谷大学世界仏教文化研究センター 大蔵経総合研究班主催、「天台密教経蔵の世界を探る—青蓮院門跡吉水蔵のデジタル・アーカイブ創成をめざして—」と題する研究報告会が開かれた。

青蓮院門跡「吉水蔵」には、天台宗の基礎を固めたとされる比叡山延暦寺の第 3 代座主・慈覚大師以来の天台密教を中心とした貴重な聖教や記録が相伝されていることから、平成元年（1989）に重要文化財に指定された。近年、龍谷大学と東京大学史料編纂所が連携してその調査とデジタル化に取り込んでいる。その成果として、「青蓮院吉水蔵聖教」から、天台宗の高僧源信や天台座主慈円の著作に関わる、自筆本を含む貴重な文献が再発見され、本報告会を通じてその意義が新たに学界に紹介された。

道元徹心氏（龍谷大学教授）による研究報告「青蓮院吉水蔵『浄土厳飾抄』の再検討」においては、青蓮院吉水蔵に架蔵されている、恵心僧都源信の『往生要集』に関わる論義文献『浄土厳飾抄』が取り上げられた。先行研究によると、この写本は弘安二年（1279）頃の鎌倉末期のものとされていた。しかし、今回の紙背文書調査から、先行研究より 107 年さかのぼる承安二年（1172）頃、平安末期の写本であることが明らかとなった。この年代差は叡山浄土教の展開を研究する上で極めて重要な手がかりとなることが検証された。

菊地大樹氏（東京大学史料編纂所教授）は、「青蓮院吉水蔵の歴史的特徴—三昧流聖教を中心に」と題する報告において、まず寺院史料の特徴を紹介し、紙背文書を含め、悉皆調査の重要性を提示した。次に、現在進められている東京大学史料編纂所による青蓮院吉水蔵所蔵資料のデジタル撮影の意義を説明した。またさらなる調査の展開により、貴重な文化財を史料として活用することから、近年真言密教研究によって牽引されてきた中世密教研究に、台密三昧流の文献学的新知見を加え、さらに新たな段階を生み出す可能性を展望した。

阿部泰郎氏（世界仏教文化研究センター招聘研究員）は、「青蓮院吉水蔵の慈円著作聖教—自筆テキストを中心に—」と題する報告において、慈円による自筆聖教『毗逝別』を取り上げた。本書には、慈円が建仁三年（1203）に見た「建仁三年夢想記」が含まれていた。これまで写本でしか知られていなかった「夢想記」が、奇しくも東京大学史料編纂所に保管される『慈鎮和尚夢想記』と繋がって完全に復元された。この「夢想記」が、後の『愚管抄』著述の原点となったため、その自筆本が再発見されたことの歴史・思想的な意義が大きい。

❖ 基礎研究部門 ❖

学術連携協定締結記念シンポジウム

龍谷大学 RCWBC & ロンドン大学 SOAS

2025 年 2 月 21 日（金）14:00～16:30

龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール



対談の様子

## ❖ 概 要 ❖

龍谷大学世界仏教文化研究センター（RCWBC）は、仏教を基軸とした学術研究を通じた社会への貢献を使命とし、海外の大学・研究機関と連携した共同研究や研究者交流を実施している。さらなる仏教研究の国際的プラットフォームを形成することを目指し、国内外の学術研究機関との協定締結を進めてきた。2025 年 2 月 21 日（金）午後、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）との学術連携協定の締結を記念し、SOAS 教授のルチア・ドルチェ氏（専門：日本宗教、東アジア仏教）をお招きしてシンポジウムを開催した。

シンポジウムの前半では、ルチア・ドルチェ氏による学術講演「日本天台密教研究の可能性—儀礼の考察から見えるもの—」が行われた。後半では、「国際的な仏教研究の潮流と課題—ロンドン大学 SOAS と龍谷大学 RCWBC の連携が生む可能性—」をテーマに、ルチア・ドルチェ氏、入澤崇氏（龍谷大学学長）、阿部泰郎（RCWBC 招聘研究員）、野呂靖氏（龍谷大学准教授／RCWBC 副センター長）の四人による対談が開催された。道元徹心氏（龍谷大学教授）の司会の下、活発かつ有意義な意見交換が行われた。



講演の様子

❖ 応用研究部門 ❖

シンポジウム

他力本願：他者を通して大悲心に生かされる

2024 年 5 月 22 日（水）11:00～12:30

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室

❖ 概 要 ❖

2024 年 5 月 22 日（水）11:00 より Mark Ty Unno (University of Oregon Professor of Religious Studies, Religious Studies, Department Head) 氏を招聘し、シンポジウム「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」が、本学大宮学舎東翼 101 教室にて開催された。



鍋島 氏（左）と Mark Unno 氏（右）

最初に Unno 氏による基調講演が行われた。Unno 氏は、大乘仏教とりわけ真宗他力の立場を、主体 (subject) と客体 (object) の関係性から示される。すなわち、われわれの住む世界は「私」である主体と、「私以外のもの」である客体とに分かれるが、この主客の関係性が「対」にあるのではなく「共に歩む」ものであるのが大乘仏教の立場であると Unno 氏は主張されるのである。そして、そ

の事象を分かりやすく説明する例として二つの物語を紹介された。

一つ目は、若いヴァイオリニストの話である。この物語は京都大学で行われた臨床心理学会でのとある発表内容がベースとなっている。ある日、14 歳の若者がカウンセリングを受診しに訪れた。若者は幼少期よりヴァイオリンの才能に恵まれ、自身もヴァイオリンに魅せ

られ日々練習に没頭していた。しかし、遺伝的に 99.9%の確率で将来失聴することが判明した。若者はその事実を受け容れることができず、深い悲しみから自身はすでに死んだと認識した。カウンセラーも何も言うことができず沈黙が続くまま日々が過ぎていった。ある日、若者は祖母の墓参りに訪れ、墓石の前に「なぜ私だけが」と、祖母へ自身の苦しみを吐露した。しかし、病気を遺伝することは苦しみを遺伝することだと気づいた時、「自分だけが」と思っていた苦しみは「自分だけではない」という命の絆に気づいた。その時、苦しみを知り共に歩むという新たな世界が見えた、というエピソードである。

二つ目は、母と子のお話である。この物語は Unno 氏の指導を受ける学生が経験に基づいて創作したものだという。反抗期を迎えた娘は、過保護な母の言葉や行動に嫌気が差し、やがてそれが苦しみへと変化していったことで、家出やリストカットをするようになった。しかし、時間が経過することで、母親が苦勞した中で自身を育ててくれたことがだんだんと理解できるようになった。自分が理想とする母親像と、実際の母親との乖離が苦しみを生んでいたが、母親も同じく苦しみを抱え生きていることがわかったと自分のこともだんだんと理解できるようになった。というエピソードである。

以上の 2 つのエピソードを通して Unno 氏は「私だけ」「独りぼっち」というのが「自力の世界」であり、「自分は一人ではない」ことに気づくと開かれる自他・主客が共に歩む世界、これこそが「他力の世界」と説明された。そして、「私だけ」ではないことに気づくこと、すなわち「他者に聞く」ことや「他者に対する深い理解」「仏の大悲心を知る」それこそが「聴聞」とであると示された。

そして、自分だけの世界に固執するのではなく、他者を通して開かれる世界・自他共に歩んでいける社会、すなわち大悲心の世界に気づかされることが肝要であるとして講演を結ばれた。

基調講演のあと、鍋島直樹本学文学部教授との対話が行われた。その中で鍋島氏は、真宗学という学問について言及し、昨今は文献を忠実に読むこと、史料の性質を検証することに比重が置かれており、自分を見つめ直す時間が少なくなっているのではないかと指摘し、理詰めも大切だが Unno 氏の本日の講演内容のように、自分の中にある物語も大切にして欲しいと述べられた。

その後の質疑では、「墓参りのエピソードは、祖母が還相廻向の菩薩となり若者の心の中に戻ってきたと思われた」といったコメントが寄せられた。Unno 氏は、親鸞が「一切衆生悉有仏性」（『涅槃經』）と味わったように、生きとし生けるものすべてがこの大宇宙の

中を生きている、命の絆・繋がりに気づくことが重要であると話されたところで、シンポジウムは幕を閉じた。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

研究展示

みんなちがって、みんないい。  
童謡詩人金子みすゞ展～まなざしの源泉～

2025 年 6 月 5 日（水）～6 月 26 日（水）10:00～16:00

龍谷大学大宮学舎 本館 1 階展覧室

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

本展示会は、現在世界中に広がり、親しまれている童謡詩人 金子みすゞの作品がどのようにして生まれたのか、その源泉を辿ることをコンセプトに開催されました。各部屋ごとに展示品の概要を紹介します。

■（北）第一室 みすゞを育んだもの～本・お仏壇・報恩講～

第一室では、みすゞが幼少期に触れあった児童書や仏壇を中心とした展示が行われました。みすゞの幼少期は大正デモクラシーの時代でもあり、児童書発展の時期でもありました。本屋を営んでいたみすゞは幼少期より児童書に接する機会も多く、後のみすゞ作品にも大きな影響を及ぼしたことが窺えます。加えて、みすゞの故郷である山口県大津郡仙崎（現長門市）は、浄土真宗や浄土宗などの信仰の篤い地域でもありました。みすゞの家にも仏壇があり、本尊の阿弥陀さまに掌を合わせていたことが、みすゞが遺した数々の作品からも窺うことができます。みすゞの中で阿弥陀さまの存在は決して小さなものではなかったでしょう。そこで、第一室では、金子みすゞが直接手に取って読んでいたであろう、明治・大正期に刊行されたアンデルセン童話などの児童書や、『少年園』

『少女世界』といった少年誌・少女誌、『お伽絵解』『日本昔噺』といった絵雑誌・絵本を中心とした展示が行われました。加えて、金子みすゞが掌を合わせていたであろう近代期の浄土真宗の仏壇も展示されました。

#### ■（中）第二室 金子みすゞの手帳

第二室では、金子みすゞの遺した 3 冊の遺稿手帳のレプリカが展示されました。金子みすゞは 20 歳で「童謡」を書き始めます。これまで抑えられていたものを噴き出すかのように、作品を生み出します。しかし、生前発表されたのはわずかに 90 編ほどでした。しかし、みすゞの没後 50 年が経過した時、矢崎節夫氏がこの手帳の存在をつきとめ、512 編ものみすゞ作品が「甦り」ました。今ではよく目にする「私と小鳥と鈴と」「こだまでしょうか」「星とたんぽぽ」もこの時に甦った作品たちです。このように第二室では、これらの作品が書かれたパネルとともに、遺稿手帳を観覧していただきました。

#### ■（南）第三室 みすゞ作品の掲載誌と展開

第三室では、金子みすゞが作品の投稿を行っていた『赤い鳥』などの掲載雑誌から、現在世界中で出版されているみすゞの書籍まで、みすゞ作品の展開をテーマにした展示が行われました。みすゞは大正 12（1923）年 9 月に作品が投稿雑誌に掲載されると、瞬く間に投稿詩人のあいだで話題となりました。西條八十も、みすゞの才能を認める一人でした。みすゞ死後、彼女の作品は次第に忘れられていきましたが、それでも童謡仲間の間では伝説のように語り継がれていきました。しかし、先述の通りに遺稿手帳の発見により金子みすゞ作品が甦ると、みすゞ作品は瞬く間に広がり、現在では世界一五ヵ国語に翻訳され多くの人に親しまれています。

第三室では、金子みすゞ作品を①みすゞ作品が掲載されていた頃、②みすゞが幻の童謡詩人として語り継がれていた頃、③現在の世界中で親しまれていく様子の三期に分けて展示がなされました。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

特別講演

みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～

2024 年 6 月 5 日（水）11:00～12:00

龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

2024 年 6 月 5 日(水)10:00 よりはじまった「金子みすゞ展」の開催を記念し、同日 11:00 より本学本館 2 階講堂にて金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫氏をお招きして、特別講演「みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～」が開催された。

最初に鍋島直樹本学教授より本展示会の開催趣旨および金子みすゞの生涯やこれまでのみすゞの詩の展開について説明された。

金子みすゞは 1903 年、浄土真宗や浄土宗などの信心の篤い山口県大津郡仙崎村で生まれ、以降、1930 年に逝去されるまでに現存する限りで 512 もの詩を遺した。みすゞは亡くなる前、弟正祐に三冊の童謡手帳と遺書を届けた。その童謡の大半は未発表のまま、長年等閑に付されてきた。1982 年、矢崎節夫



矢崎 氏

氏はみすゞの三冊の遺稿手帳が弟正祐の手元にあることを発見した。この発見により、みすゞの童謡が世界中で出版されて甦ったのである。では、みすゞの「みんなちがって、みんないい。」の優しいまなざしはどこから生まれきたのだろうか。それを共に見つめ直したい。それがみすゞ展の開催趣旨である

趣旨説明の後、矢崎節夫先生よる記念講演が行われた。当時、知る人ぞ知る童謡詩人であった金子みすゞの詩は、いまや国語や道徳の教科書に採用されており、現在34歳以降の日本で学んできた学生は、かならず金子みすゞの詩を学んでいることになるという。またみすゞの詩は日本だけでなく中国の教科書に採用されたり、英語やハングル、ジョージア語などさまざまな言語に翻訳され、世界に広がっている。では、金子みすゞの詩がどうしてこのようにさまざまな地域や人々に受け入れられたのか。矢崎氏はいくつかのみすゞの詩を例に挙げつつ、その魅力を語られた。

#### ■大漁

朝焼小焼だ/大漁だ/大羽鰯の/大漁だ。//濱は祭りの/やうだけど/海のなかでは/何萬の/鰯のとむらひ/するだらう。（新装版金子みすゞ全集 2-101）

「大漁」は矢崎氏が金子みすゞ作品を探求する契機となった作品であるという。若くから児童文学を志していた矢崎氏は、北原白秋や西條八十らを輩出した早稲田に入学する。そこで「大漁」の詩と邂逅した矢崎氏は、他の児童文学・童謡にはない衝撃を覚えた。その詩は、よろこびとかなしみは同時であることを気付かせた。それは、どちらが上か、どちらが先かではない。同じく大切なものである。わたしがいわしに生かされていたことに気付かされ、その詩に衝撃を受けたと語られた。

#### ■こだまでしょうか・さびしいとき

「遊ぼう」つていふと/「遊ぼう」つていふ。//「馬鹿」つていふと/「馬鹿」つていふ。//「もう遊ばない」つていふと/「遊ばない」つていふ。//さうして、あとで/さみしくなつて、//「ごめんね」つていふと/「ごめんね」つていふ。//こだまでせうか、//いいえ、誰でも。（同 3-237,238）

私がさびしいときに、/よその人は知らないの。//私がさびしいときに、/お友だちは笑ふの。//私がさびしいときに、//お母さんはやさしいの。//私がさびしいときに、/佛さまはさびしいの。（同 2-176）

これらの詩からは、宗教の、「親さま」と呼ばれる阿弥陀仏の大切さ・ありがたさを感じ取ることができる。注目すべきは、自分がさびしいときに友達や母は笑い、仏はさびしいという鮮やかな対比である。それは、自身の苦しみを親や仏は、何も言わずに理解し、その人の立場に寄り添うから、「やさしい」であったり一緒に「さびしい」ので



ある。しかし友達は言葉で説明しないとわからない、でも言葉は不完全である。それなのに我々は苦しいことを伝えているのに「なぜ理解してもらえない」と苦しんでしまう。だからこそ、「さみしい」を「さみしい」とうけとってもらえる存在の大切さが際立つのである。

#### ■私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、/お空はちつとも飛べないが、/飛べる小鳥は私のやうに、/地面を速くは走れない。//私がからだをゆすつても、/きれいな音は出ないけど、/あの鳴る鈴は私のやうに/たくさんな唄は知らないよ。//鈴と、小鳥と、それから私、/みんなちがつて、みんないい。（同 3-145）

この詩には、「できないこと」「しらないこと」しか書かれてない。それが「みんなちがつて、みんないい。」と肯定されていく世界に気付かされる。つまり「できなきやいけない」のではなく、「できなくていい」からこそ喜びがあるのだと矢崎氏は語られた。最後に、矢崎氏は詩を読むことについて、金子みすゞの詩はどんな読み方をしても正解であるから、ぜひ自分にとって嬉しい詩をみつけてほしいと受講者に話された。詩は読むものではなく、覚えるものであるとも語られた。ふと詩を思い出したとき、そのときの思い出が甦ると矢崎氏は語られた。今回の展示会においても、是非ともみすゞの時代にふ



れあい、みすゞの詩に触れ、みすゞの世界を体験してほしいという言葉で本講演は締めくくられた。

❖ 応用研究部門 ❖

特別講義

地域に開かれた寺院

2024 年 6 月 11 日(火)15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 北翼 101 教室

❖ 概 要 ❖

2024 年 6 月 11 日（火）15:15～16:45、大宮学舎北翼 105 教室において、本学非常勤講師である柱本惇氏を招聘し、特別講義「開かれた寺院」を開催した。講師である柱本氏は、浄土真宗本願寺派明覚寺の住職を務めながら、地域に根ざした寺院の在り方を追求している。今講義では、柱本氏が自坊でおこなっているさまざまな取り組みにを例示しつつ、これからの寺院の在り方について考える場となった。以下に要点を述べる。

高齢化社会や貧困化、単独世帯の増加や地縁・血縁の希薄化に起因する社会の無縁化など、現代日本にはさまざまな問題が散在している。京都市の寺院で生まれ育った柱本氏は寺院を運営する中で、このような現状に危機感を抱き、地域社会に寺院が貢献できることは何かを模索することとなった。そして明覚寺では現在、コワーキングスペースやヨガ、野菜市など、さまざま



柱本 氏と鍋島 教授

な催し物を境内地や堂内で実施し、門信徒・老若男女を問わず、さまざまな人が集まる場所として機能しているのである。では、このようなさまざまな取り組みを行うためにはどのよ

うな点に注意すべきであろう

か。柱本氏は以下の（１）～（４）が重要であるという。

（１）自身が預かる寺院はどのような寺院かを知る。

「何かしなければ」というのは頭で分かっている「何をすべきか分からない」という事例は多いのではないだろうか。柱本氏はまず行動に移る前に、自身が預かる寺院はどのような寺院であるかを知るところから始めるべきであるという。柱本氏が奉職する明覚寺を例示すると、当寺は 1490 年開基で柱本氏で 21 代目である。西本願寺の元塔頭寺院としての歴史を持つことから歴代住職も本願寺との関係性も深く、寺院も 2022 年には登録有形文化財に登録されている。このように寺院の歴史を知ることが、以下の（２）～（４）にも接続されていく。

（２）地域性、環境、門信徒との関係性などを分析し、長所・短所を見つめ直す。

次にその寺院の長所と短所を導く。柱本氏は明覚寺をとりまく環境を分析し、「京都駅近くの立地」「近隣寺院がすべて本願寺派」「門信徒は遠方が多く相互の関係性は密接ではない」「駐車場がなく境内地も狭い」という長所・短所のあることを導き出したという。

（３）寺院の強み（セールスポイント）は何か上記の結果をもって次に、自身の寺院の持つ強みについて考える。

（１）（２）より「歴史と立地」「本願寺に対する親しみ」といった強みを導き出すことができる。さらに、自身の持つ考えや能力を勘案すると、「寺族の顔が見える」「何でもできる」ということも強みに加えることができた柱本氏は述べる。

（４）どのような寺院の在り方を理想とするか

寺院を分析し行動に移しても、その活動を継続していくことは困難を極める。そこにはやはり、活動を行うことに対する理念や理想が重要となる。柱本氏は自身の活動理念として「伝統的な真宗寺院の在り方」「伝統的な法座の形式を遵守する」「門信徒にとって、社会にとってを考える」等を掲げられた。

また、寺院活動を行う中で、社会の変化にも対応する必要があると柱本氏は述べる。昨今の「イエ」・「ムラ」といったコミュニティの減少により宗教も「イエ」から「個人」のものへと変化している。すなわち、「うちの宗教は〇〇宗」だからという関係性で菩提寺や所属寺院と付き合う時代ではなくなってきており、消費社会の中で葬儀や住職も商品として「個人」が「選択」する時代へと変遷しようとしているのである。柱本氏はだからこそ、個人との関係性や僧侶としての専門性を維持することも大切であると述べ、同時に寺院は地域の NPO などと協同し地域を盛り上げていくという役割も重要であるとし、講義を締め括った。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

特別講演

金子みすゞ～いのちへのまなざし～

2024 年 6 月 13 日（火）13:30～15:00

龍谷大学大宮学舎 東翼 209 教室

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

「童謡詩人 金子みすゞ展」の開催を記念し、2024 年 6 月 13 日（木）13:30～15:00、東翼 209 教室において特別講義「金子みすゞ～いのちへのまなざし～」が開催された。第二回目となる特別講演の講師は、本学文学部教授の鍋島直樹氏が担当した。



鍋島 教授

金子みすゞは 1903 年、浄土真宗や浄土宗などの信心の篤い山口県大津郡仙崎村で生まれる。2 歳の頃に父が亡くなると、下関の上山文英堂の後押しで、金子家は仙崎で唯一の書店、金子文英堂をはじめる。母や祖母は浄土真宗の門徒であり、みすゞも母や祖母とともにお仏壇に向かい手を合わせていた。このような環境が、金子みすゞ作品に影響を及ぼしたことは想像に難くない。本展示会でも「みすゞを育んだもの」として、みすゞが読んだであ

ろう児童書や、みすゞ当時の造りである浄土真宗のお仏壇が展示されている。

本講演は、そのようなみすゞ作品の源泉を探るべく、彼女の詩の世界から浮かびあがる「幸せとさみしさ」に焦点をあて考察するものである。以下に要点を述べていく。

最初に注目すべきは、金子みすゞが綴った「海の生物」に関するいくつかの詩篇である。第一回の矢崎氏の講演で触れられた「大漁」の詩に加え、みすゞには、「おさかな」「鯨法会」といった詩が残されている。

#### ■おさかな

海のお魚はかわいそう。/お米は人につくられる、/牛は牧場で飼われてる、/鯉もお池で  
麩を貰う。/けれども海のおさかなは、/なんにも世話にならないし、/いたずら一つしな  
いの、/こうして私に食べられる。/ほんとに魚はかわいそう。（金子みすゞ童謡全集  
1-12,13）

#### ■鯨法会

鯨法会は春のくれ、/海に飛魚採れるころ。//浜のお寺で鳴る鐘が。/ゆれて水面をわた  
るとき、/村の漁師が羽織着て、/浜のお寺へいそぐとき、/沖で鯨の子がひとり、/その  
鳴る鐘をききながら、/死んだ父さま、母さまを、/こいし、こいしと泣いてます。//海  
のおもてを、鐘の音は、/海のどこまで、ひびくやら。（同 6-128,129）

金子みすゞは、自分たちの喜びと対極にある相手の悲しみを感じ取っていることがわ  
かる。「かわいそう」と思いながらも、その魚（いのち）をいただいている、というみすゞ  
の表現は注目すべきであると鍋島氏は語る。これは、「いのちの尊さ」を大切にしたいみ  
すゞならではの表現である。「鯨法会」とは金子みすゞの故郷、仙崎で行われる法事であ  
り、捕鯨でやむなくいのちを失った鯨を追悼し、お寺に漁師たちが集まるものである。実  
際に仙崎に足を運ぶと、「くじら墓」と書かれた墓石があり、そこには「南無阿弥陀仏」  
の文字も刻まれている。実は捕鯨をしなくなった現在においてもこの鯨の法事は執り行  
われているという。それは、岸に打ち上げられたり、網にかかってしまった鯨に向けたも  
のであるという。現在でも亡くなった鰻や鯨に手をあわせる仙崎の人々の姿は尊いもの  
であると鍋島氏は語気を強められた。

今もつづく仙崎での風習からは、すべてのいのちを大切にしたい金子みすゞの源泉が垣  
間見えるのではないだろうか。また、海の生物だけではなく、今はもうこの世の縁が尽き  
てしまった大切な人々に向けても、みすゞは「幸せとさみしさ」をそなえた詩を残してい  
る。

#### ■星とたんぼぼ

青いお空の底ふかく、/海の小石のそのように、/夜のくるまで沈んでる、/昼のお星は眼に見えぬ//見えぬけれどもあるんだよ、/見えぬものでもあるんだよ。(以下略、同 3-164)

「みえないけれどもある」、まさに母や祖母とお仏壇の前で読んでいた「正信偈」がテーマとなっているのではないかと鍋島氏は考察する。「正信偈」の中で親鸞聖人は、

「われまたかの摂取のなかにあれども、煩惱、眼を障へて見たてまつらずといへども、大悲、倦きことなくしてつねにわれを照らしたまふといへり」（註釈版聖典 207）と讃嘆する。すなわち、仏の救いの光は、煩惱をかかえた私には見えないが、それでも光は私を照らし護ってくれている。そうした安心感が示されているのである。

また、鍋島氏はこの詩を東日本大震災で家族を亡くした方々の前で朗読した時、聴衆が涙を流されていたこという。それは、遺族が「見えないけれども、愛する人は仏となって今も心に生きている」と感じたからであると鍋島氏は述べられた。

また、第 1 回特別講演でも紹介された「私と小鳥と鈴と」は、矢崎氏も指摘したように、この世に存在するすべての者に存在する意義があることを伝えている詩であると考えられる。では、「みんなちがって、みんないい。」という視点はどのように生まれたのか。鍋島氏は母や祖母と一緒に掌を合わせた「お仏壇」が影響しているのだろうと推測する。みすゞにとってお仏壇とは、亡き父に会える場所であり「見えないけれどもいる存在を感じる場所」であったのだろう。それは、「私がさびしいときに、仏さまはさびしいの」（さびしいとき、金子みすゞ童謡全集 4-49）と詠んだみすゞの詩のことばから窺うことができるのではないだろうか。

眼に見えないけれど、心の中にいてくれる存在がいる、だからこそ前に向かっていける。みすゞの詩は、そのような明日への勇気を与えてくれるとの鍋島氏の言葉で、本講演は締めくくられた。

その後の参加者からのコメントでは、

- ・金子みすゞの詩に仏さまの存在が生きていることに驚いた。自身が幼少の頃、テストの用紙をお仏壇にお供えしたことを思い出した。
- ・金子みすゞの生きた背景と詩が重なる。詩から金子みすゞの背景が伝わってくるように感じた。

といった意見が寄せられた。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

特別講演

みすゞの読んだアンデルセン童話

2024 年 6 月 19 日（水）11:00～12:30

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

「童謡詩人 金子みすゞ展」の開催を記念し、2024 年 6 月 19 日（水）11:00～12:30、東翼 101 教室において特別講演「みすゞの読んだアンデルセン童話」が開催された。第三回目となる特別講演の講師は、JULA 出版局の柴崎大輔・北尾知子の両氏が担当された。JULA 出版局は 1982 年に設立された子ども向けの書籍を取り扱う出版社である。第 1 回講師である矢崎氏が発見したみすゞの手帳に感銘を受け、その全集を刊行して以降、金子みすゞに関する遺品の保管や展示会などを行なっている。

最初に鍋島直樹本学文学部教授より金子みすゞの略歴・詩の魅力についての説明がなされた。金子みすゞは幼少期より本に囲まれた生活を過ごした。祖母と母は本屋を営み、またみすゞ自身も 20 歳で下関の書店を手伝いながら、詩の投稿をはじめた。現在、その詩は世界 15ヶ国語に翻訳され、多くの人々に親しまれ続けている。次に JULA 出版局より講演を賜



柴崎 氏・北尾 氏

った。金子みすゞと本は切ってもきれない関係性である。幼い頃から本に恵まれた環境にあったみすゞは、おのずと本の虫となる。また、金子みすゞの生まれた時代は、スウェーデンの女性教育家エレン・ケイが唱えた「20 世紀こそ子どもの世紀」の思想を受けて、児童文学がまさに発展しようとする黎明期であった。童謡運動のそのひとつである。童謡については後述するが、当時 15 歳であったみすゞも、最新の芸術であった童謡に惹き込まれていくのである。

さて、本に囲まれて過ごした金子みすゞは、どのような本を読んで育ったのだろうか。JULA 出版局の北尾氏は、みすゞが投稿した詩の端々にそのヒントが隠されているという。例えば日本の童話。金子みすゞデビュー作は『童話』1923 年 9 月号に掲載されるが、そのひとつのタイトルは「打出の小槌」である。他にもみすゞは「こぶとり爺さん」や「花咲爺さん」、「舌切り雀」など、童話にまつわる詩を多く残しているのである。日本だけでなく、アンデルセン童話やグリム童話、ペロー童話、ギリシャ神話をモチーフにした詩もみすゞ作品には多い。みすゞは幼い頃よりさまざまな本や雑誌を読んで育ってきたことは想像に難くない。

ただし、実際にみすゞはどの出版社のどの時代に出版された本を読んでいたか、についてはあまり明らかになっていない。口惜しくもみすゞの遺品や資料は、空襲で焼けてしまったのである。しかし、JULA 出版局の柴崎氏によれば、みすゞの詩をじっくりと読み解いてみると、いくつかの推測を行うことができるのである。例えば「人なし島」という詩はロビンソン・クルーソー（ロビンソン漂流記）をモチーフにしているのだが、ここには「100 枚とばして」という表現がある。この点より類推すれば、みすゞの手沢の『ロビンソン漂流記』は 200 ページ以上の装丁であったと考えられる。そこで当時の 200 ページ以上ある『ロビンソン漂流記』を集めたものが本展示第一室の①である。この中にあるのどれかをみすゞは読んでいたのかもしれない。また「杉と杉菜」という詩には「青銅（からかね）の豚」という言葉が出てくる。これはフィレンツェを舞台にしたアンデルセン童話の一つであるが、そのタイトルは翻訳者によって種々に異なっているのである。そこで JULA 出版局は、みすゞが活躍した時代に出版されたアンデルセンの本の中から、「青銅（からかね）の豚」という翻訳をおこなっていた本を探索し、楠山正雄『アンデルセン童話全集』（新潮社）がそれに該当することを発見した。さらに、本書は有名なアンデルセン童話の一つである「人魚姫」を「人魚のむすめ」と翻訳しているが、みすゞの作品にも「人魚のむすめ」という言葉が登場するのである。またこの本は大正 13 年 9 月に発行されていることから、遺稿手帳の収録順序と照らし合わせることで、金子

みすゞの詩作の時期を予測することも可能となるのである。さらに JULA 出版局はみすゞと当時の童謡について言及された。今の「童謡」とイメージが異なるり、みすゞの時代に始まった童謡運動には、思想的・芸術的・教育的な意味合いがより深く込められていたと柴崎氏は推察する。当時の「童謡」の意味を尊重して、みすゞを「童謡詩人」と呼び続けたいと考えているのである。野口雨情『童謡作法問答』には、当時の若者にとって「童謡」は、「それは何か」と友達に聞くのも恥ずかしいほどにトレンドであったことが書き記されている。例えば西條八十が書いた童謡である「かなりや」はレコードで発売されると、たちまち大流行しているのである。みすゞの時代の「童謡」には、新たな詩作としての情熱があり、皆がこぞって心血を注いで創作されたものであったのである。野口は先の書で「どんな童謡が後世に残るか」という問いに対して、「自分自身の心持ちを誰にも遠慮することなしに、自由に歌わなければならない」と答えた。まさにみすゞの詩はこの一言に尽きるものであり、だからこそ、みすゞの詩は後世にも残りつづけているのであろう。

展示会では金子みすゞを育んだ本の世界、そして金子みすゞが心血を注いだ「童謡」という詩の世界を味わってほしい、との言葉で講演は締めくくられた。



記念写真

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

研究会

大乘仏教の国際関係論：日本の事例からの考察

2024 年 6 月 21 日（金）16:55～18:25

龍谷大学深草キャンパス 和顔館 306 教室

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

本研究会では、清水耕介教授（本学国際学部）著書「The Kyoto School and International Relations: Non-Western Attempts for a New World Order」（ロンドン: Routledge、2022 年）を基として、林佩瑩 氏（国立政治大学宗教学大学院（台湾）・准教授）を招聘し、国際関係論 (IR) の研究に対する大乘仏教のアプローチの可能性について議論を行った。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

特別講義

龍谷大学からジェンダー平等をめざして

2024 年 6 月 25 日(水)15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 北翼 105 教室

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

龍谷大学大宮キャンパスにて、2024 年 6 月 25 日（火）にジェンダーと宗教研究センター嘱託研究員・安食真城氏（本学宗教部課長）による特別講義「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」が開催された。

龍谷大学では「誰一人取り残さない」という世界共通の目標 SDGs に、仏教の思想に根ざした「仏教 SDGs」を掲げ、多様性を認め合う教育と研究を進めている。2017 年には「性のあり方の多様性に関する基本指針」を策定し、「性的指向や性自認など、性のあり方は多様であり、これらに関する差別や偏見を解消し誰もが自分らしく安心して過ごすことができる大学や社会を目指すことは、すべての本学構成員が取り組むべき課題」と示した。



安食 氏

そのような龍谷大学のジェンダー平等の実践に、積極的に取り組んでいるのが安食氏である。今回の特別講義では、LGBTQ に対する時代的な認識の変遷や、ジェンダー平等に向けた龍谷大学の実践について説明した。「性のあり方の多様性に関する基本指針」策定のきっかけとなったのは、宗教部が実施したアンケート調

査である。その結果、回答者 858 人のうち 130 人が性的マイノリティ当事者を自認しているという回答があった。友達との何気ない会話やコミュニケーションのなかで、深く傷ついてしまった経験を持つ方が少なくないことも確認できたという。また、回答からみると性的マイノリティだが、当事者意識はないという方が 90 人いた。そのようなアンケート結果を踏まえて、安食氏は「LGBTQ や性のアイデンティティといったものは他人が決めるようなものではない。まずは本人がどのように認識しているのかを尊重しなければならない」と述べる。

具体的な実践として、性別にかかわらず利用できる多機能トイレを「だれでもトイレ」という名称に変更したことを紹介した。それによって、学生たちのトイレに対する意見や議論も起こり、「みんなのキャンパストイレフォーラム」というオンラインイベントの開催にまで至った。現在も「オールジェンダートイレ」の設置・増設に向けて精力的に取り組んでいる。安食氏は「社会には、トランスジェンダーや同性愛者のなかの性的マイノリティに対する攻撃的な言説や排他的な慣習が溢れている。それは決して他人事ではなく、私自身も知らず知らずのうちに他者を傷つけているかも知れないことを自覚する必要がある」と強調した。

鍋島直樹教授からは、浄土真宗本願寺派の開教使チャプレンである宮木 Lee 啓輔氏の紹介があった。彼がチャプレンとして活動するなかで支えとなっていたのが、釈尊の「月愛三昧」である。「月愛」とは月の明かりのように暖かく、全てを受け止めてくれる仏の慈悲をいう。その意義をあらためて繙き、さまざまな偏見に気づいて、その人を大切にする仏教の平等の精神について語った。打本弘祐准教授からは、チャプレンは自らの生育歴を見つめ直すことが重要であり、自らの弱さや固定観念に気づくなかで、一人ひとり異なる苦悩を聞くことができるだろうと話した。院生の長尾菜摘さんは、ジェンダー平等とは、かぎりなく境目がないことであり、分け隔てなく自他を尊重することではないかと語った。

講義後、参加者や龍谷大学大学院実践真宗学研究科の学生を交えて活発な議論が行われた。今回の特別講義を通して、ジェンダー平等に向けた龍谷大学の歩みを知ることができ、社会課題について学び続ける事の重要性を再認識させられた。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

グリーンケア講座

傾聴のコツ：話を「否定せず、遮らず、拒まず」

2024 年 7 月 9 日（火）15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

2024 年 7 月 9 日（火）15:15 より、本学大宮学舎西翼 2 階大会議室において、グリーンケア講座「傾聴のコツ：話を「否定せず、遮らず、拒まず」」が開催された。講師はカフェデモンク主宰である金田諦應氏がつとめられた。カフェデモンクは、東日本大震災における復興支援の最中に生まれる。国境なき医師団が撤退しようとしているときだった、人々は帰らないでほしいと必死に引き留めていた。その時、金田氏は、「僧侶はここまで必要とされているだろうか」と感じ、「僧侶」が被災地を巡回しながら人びとの「文句」を聴くカフェ「カフェデモンク」を始める着想を得た。



金田 氏

石巻市・気仙沼市・南三陸町がカフェデモンクの主な活動地域であった。実は、震災の犠牲者の 3 分の 2 が南三陸町であったことを後に知ることになる。カフェにはスピリチュアルペインに関する問い「何故私だけが助かったのか」「助けることができなかった私はどうすればいいのか」が飛び交った。答えが見つからない問いに、当初は金田氏も逃げ出したくなったという。しかし、

答えを用意するのではなく、答えが落ちるのを待つのが傾聴のコツであり、「人は必ず立ち上がれる（レジリエンス）」と金田氏は述べられる。経験談として2歳の息子を震災で亡くし、スピリチュアルの悲しみに苦しんでいた母親からの問いについて話された。

母親は金田氏に「息子はどこにいるの？」と問う。長い沈黙のあと金田氏は「どこにいて欲しい」とたずねる。再び長い沈黙のあと、「光があふれ、お花が沢山咲いている場所」と答えた。この会話が交わされる間は、実に1時間であったという。「沈黙」を待つことも傾聴活動では大切であるという。それは、こちらから答えを用意しないことが傾聴であるからである。そして2年後に再会した際、母親は「与えられた命を、大切に生きる」、6年後には「私の経験を語りたい」と言うようになっていったという。傾聴を続けることで少しずつではあるが、母親は立ち上がっていつている（レジリエンス）という。すなわち人は話を聴いてもらうことで、心が和らぐ・安心感が得られるのである。「聴く」ということを深めていかなければならない。ただし、相手が話しはじめるまでじっと待つ根気強さも必要である。

また、傾聴とはナラティブアプローチ、すなわち相手の語る物語を全て受け入れ共感することだという。ゆえに傾聴は善悪の価値判断をしたり、自分の価値観（信仰）から話すのではなく、無条件に相手の物語を受け入れる事が大切である。例えば自殺念慮を抱く男性に「地獄に落ちる」や「極楽に生まれる」などの一般的価値観を伝えることはあまり意味がなく、自殺希念に至る心の道筋に慈悲（愛）をもって向き合い、共感し、共に歩んでゆく姿勢が大切であると金田氏は自身の経験則を通して述べられた。

また、傾聴には場をほぐす力も必要（遊び心・無防備・自己距離化）と金田氏はいう。その意味で臨床宗教師は「ケアアーティスト」と称してもいいという。それは傾聴を通してモノクロームの世界に色付ける存在であるという自身の気づきに基づくという。厳しい場所であるからこそ場を彩るユーモアが必要なのである。そこにはケアする側、される側が互いに響きあう色即是空の世界が広がると金田氏は振り返る。

以上のように、「傾聴」を行う際には、相手の言葉や言葉の裏側に潜む感情に共感すること、自身の価値観からの答えを提示しないこと、相手から言葉が自然に落ちてくるのをじっと待ち、程よい距離と熱量で相手の語りを聴き続け、苦しみに向き合い続ける姿勢が大切であると総括し、講座は結ばれた。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

グリーフケア講座

スピリチュアルケア

2024 年 7 月 17 日（水）13:30～17:45

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

2024 年 7 月 17 日（火）15:15 より、本学大宮学舎西翼 2 階大会議室において、グリーフケア講座「スピリチュアルケア」が開催された。座学として谷山洋三氏（東北大学大学院文学研究科教授）によるスピリチュアルケアをテーマとした講演が行われた後、受講者による非公開での会話記録検討会が行われた。

❖ 応用研究部門 ❖

特別講義

実践真宗学のフロンタライン

2024 年 10 月 9 日（水）11:00～12:30

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室

❖ 概 要 ❖

2024 年 10 月 9 日（水）11:00 より大宮学舎東翼 101 教室において特別講義「実践真宗学のフロンタライン」が開催された。最初に鍋島直樹本学教授による趣旨説明・講演の後、実践真宗学研究科に所属する二名の大学院生による実習報告が行われた。



長岡 氏



長尾 氏

①「ハワイにおける真宗伝道の実践」長岡阿衣璃

1889 年より開始された西本願寺のハワイ伝道は、現在 32 寺院、38 名僧侶、メンバー（門徒）4000 人によって活動されている。ハワイ教団ではどのような実践活動がおこなわれているのか、長岡氏は現地実習を踏まえてその一例を紹介・報告された。

#### ■プロジェクトダーナ

モイノリ本願寺から始まる年寄りや障害者を支援するための活動で、「ダーナ（布施）」の精神をもとに開始、今ではキリスト教やユダヤ教など宗派を超えて活動が広まっている。理念は「self less giving」見返りを求めないことである。

#### ■チャプレン

病院や施設でケアを行う僧侶。チャプレンのブレイン比嘉氏は「不完全な伴走者」と表現する。

後述の臨床宗教師もここに該当する。

#### ■ポリスチャプレン

警察官と共に行動する僧侶。警察官と同じ制服を身につける。被害者の話を聞いたり、時には警察官のケアも行う。被害者の遺族に事件を伝えることなどもある。

Peace day, Sunday service, Living treasures などハワイ教団の伝道活動は他にもいくつもある。最後に長岡氏は「ハワイでの活動例を通して、受講者に少しでも真宗伝道に興味関心が高まる機会となってもらえれば幸いである」との言葉で発表を結ばれた。

#### ②「実践に学ぶ臨床宗教師」長尾菜摘

長尾氏は実践真宗学研究科のプログラムである「臨床宗教師」課程を受講した経験を通して、実践真宗学で学ぶべきテーマや問題提起を行った。

まず臨床宗教師とは、苦悩を抱える人々に寄り添う傾聴する宗教者である。傾聴とは臨床宗教師において重要な姿勢であり、その人の零れ落ちてくる話を拾い、その人の立場になって理解しようとする姿勢のことである。

医療現場や被災地の仮設住宅、福祉施設など悩みや苦しみを抱えた人に対して、傾聴を通してグリーフ（悲嘆）ケアを行うことが活動の一環である。

臨床宗教師と宗教者の違いは、「公共施設で活動を行う」「布教・勧誘を目的としない」「他宗教者との連携」「患者の宗教、価値観を尊重」「多職種連携」が挙げられる。自身の信仰を押しつけず、傾聴する相手の信仰や価値観を尊重することが特徴である。実践真宗学では、あそかビハーク病院の終末期医療現場や東北の被災地での現地実習を行う。

長尾氏は最後に「本報告を通して寺院出身ではない、僧侶ではないという方も臨床宗教師や実践真宗学に興味を持ってもらえれば幸甚である」との言葉で締めくくられた。

❖ 応用研究部門 ❖

特別講義

親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して

2024 年 11 月 20 日（水）11:00～12:30

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室

❖ 概 要 ❖

2024 年 11 月 20 日(水)11:00 より東翼 101 教室において、上杉智英氏を招聘し、特別講義「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」が行われた。この上杉氏の特別講義は、文学部教授の鍋島直樹担当「真宗学概論 A2」の受講生とともに学内外の研究者が 221 名参加した。

上杉氏は京都国立博物館で主任研究員として昨年度の「親鸞聖人生誕 850 年特別展 親鸞一生涯と名宝～（親鸞展）」に携われた。上杉氏の担当は書跡であり、その中でも仏教典籍が専門である。

「親鸞展」は浄土真宗の開祖である親鸞の生誕 850 年を記念して、2023 年 3 月 25 日～5 月 21 日の期間で京都国立博物館にて開催された。本講義では、「親鸞展」を振り返り展示品の特色や展示の意図についてお話いただいた。



上杉 氏

「親鸞展」の特色は、「親鸞展」であることである。すなわち、「西本願寺展」や「東本願寺展」、「専修寺展」など、特定の宗派に限定した展示ではないことである。浄土真宗は多くの宗派に分かれており、現在「真宗教団連合」には真宗十派（本願寺派、大谷派、高田派、佛光寺派、興正派、木辺派、出雲路派、誠照寺派、三門徒派、山元派）が加盟しているが、

本展ではその真宗教団連合特別協力のもと、宗派の垣根を超えた総合的な展示がなされている。たとえば、親鸞の主著『教行信証』は、鎌倉時代に成立した古写本が三点（西本願寺本、坂東本、専修寺本）現存しており、それぞれ西本願寺・東本願寺・専修寺の寺宝としているが、これら鎌倉三本が揃って展示されたのは史上初のことである。また、親鸞自筆の消息も十二通が現存しており、それぞれ真宗諸派につたわっているが、それらが全て集結したことも史上初のことであった。出陳件数も親鸞に関わる展示会としては過去最多の181件であり、本展ではそれらをテーマごとに分けた7章構成で展示がおこなわれた。本講義では第1章、第2章、第5章を中心に解説がおこなわれた。

第1章では「親鸞を導くもの」として、本尊や所依の經典、親鸞の師である七高僧についての展示がなされた。本尊である阿弥陀仏は、浄土真宗では木像・画像（えぞう）・名号本尊に大別される。中でも特徴的なのは名号本尊である。名号本尊は他宗でも安置されるが、たとえば浄土宗では六字名号（南無阿弥陀仏）は掛けられるが、九字名号（南無不可思議光如来）や十字名号（帰命尽十方無礙光如来）は存在しない。このように本尊からも浄土真宗の独自性が窺える。

また、所依の經典の一つである『仏説阿弥陀経』の經文に親鸞が註を加えた『阿弥陀経註』も必読である。經文の上下左右にある空白に夥しく書き加えられた註記は、親鸞の修学の形跡が窺えるものとして興味深い。さらにもう一点注目すべきは、七高僧の一人である曇鸞の著作に親鸞が加点を施した、版本『往生論註』加点本である。鎌倉時代の木版印刷がすでに貴重である上に、親鸞の訓点や註記が朱筆されているのである。これにより『往生論註』を親鸞がいかにか読んでいたのか、すなわち七高僧の教えが親鸞へといかに相承されたのかか窺えるのである。

これらの典籍より、「南無阿弥陀仏一つで救われる」という念仏の教えの裏には緻密な研鑽があったことが知られるのである。

第2章では「親鸞の生涯を」テーマに展示がなされた。親鸞の生涯を窺う上で不可欠な資料は覚如『親鸞伝絵』である。「伝絵」とは詞書が付された絵巻物であり、親鸞の生涯が鮮やかに映し出されている。その中でも注目すべきは往生の場面である。親鸞の往生は、日本浄土教では非常に珍しく来迎の様子が描かれないのである。平安期以降の日本浄土教では臨終正念が重要視され、臨終行儀のため多くの来迎図が描かれた。しかし親鸞の教えは、「臨終まつことなし来迎たのむことなし」つまり臨終に心を正して来迎の準備をする必要はなく、信心がさだまるその時に、往生することもまた決定している。まさに親鸞の教えが反映された絵伝なのである。

第 5 章は「親鸞のことば」として親鸞著作が並べられた。展示された 22 点中、実に 17 点が親鸞の自筆である。その中でも、上述の「坂東本」は親鸞自筆の『教行信証』として非常に貴重である。『教行信証』は浄土真宗において「立教開宗の根本聖典」とされており、『本典』とも呼称される。その筆跡からは親鸞が晩年まで何度も改訂を繰り返されていたことが指摘されており、まさに親鸞畢生の大著である。

書面に鏤められる大量の抹消や加筆などの推敲の跡は、親鸞がいかに本書に心血を注いでいたかを物語っており、まさに浄土真宗の至宝である。また坂東本は近年に角筆が発見されたことも話題になった。角筆とは、先の尖った筆記具で墨を染めずに、紙面のくぼみで文字や合点などを書き入れたものであり、現在坂東本には 870 ヶ所の角筆が発見されている。これらの筆跡は、まさに展示会で実見しなければ体感することのできない特色といえるだろう。

最後に上杉氏は、「親鸞展」を開催した所感として、他宗派の仏教関連の展示と比較すれば地味な展示会であったと語られた。しかし、その地味さが大切なのだと上杉氏は述べる。浄土真宗の文化財には、他宗の展示で出されるような華美な、また迫力溢れた仏教美術がない。それは「阿弥陀仏一仏によって万人がお念仏ひとつで救われる」という浄土真宗の教えを如実にあらわすものである。換言すれば、浄土真宗の教えでは、迫力のある仏像や豪華な写経、壮大な来迎図は往生に必要がないのである。地味であることが浄土真宗の特色であり、そして大切な部分なのである。

そして、「親鸞展」で考えさせられることは、800 年前の文化財を今、私が目にしていることの意味である。800 年も残っていたということは、念仏の教えをよろこぶ人びとによって、その文化財が大切に守られてきたということである。先人が守り伝えてきてくれた文化財と、そこに込められた想いをこれからも大切に伝えていきたいという言葉で講義は締めくくられた。

講義後、フロアーを代表して井上見淳社会学部教授よりコメントをいただいた。「親鸞展」を開催して嬉しかったことは何かとの質問に対して上杉氏は、貴重な文化財を実見できたことが何よりも嬉しかったが、それらを借用するときに、所蔵先の寺院や施設の人びとの顔も実見できたことが嬉しかったと述べられた。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

新書発表会

Relations and Roles in China's Internationalism:  
Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World  
(中国の国際主義における関係と役割:  
プルリバーサル世界における儒教の再発見)

2024 年 11 月 22 日 (金) 17:55～18:25

オンライン (Zoom)

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

応用研究部門紛争解決研究班と延世大学の共催で、2024 年 11 月 22 日 (金) に Zoom にて、石之瑜 教授 (同済大学) の新書発表会「Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World (中国の国際主義に於ける関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の再発見)」を開催した。

---

---

❖ 応用研究部門 ❖

---

---

---

---

ディスカッション形式講演会

幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会  
第 2 弾  
「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」

2024 年 11 月 26 日（火）13:30～15:00

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---

---

---

❖ 概 要 ❖

---

---

2024 年 11 月 26 日（火）龍谷大学大宮学舎において、幾田桃子氏と千々松由貴氏が「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」をテーマに、龍谷大学の学生とディスカッションがおこなわれた。

両氏によって、各学生の実体験や、それに裏打ちされた「理想の職場」像など、「働く」ことに対する素直な気持ちや考えが引き出された。

学生にとって素晴らしいディスカッションになった。

今後、社会進出するにあたって、学生たちがこのディスカッションの内容を思い出し、実践することで、より働きやすい環境が生まれることを願う。

❖ 応用研究部門 ❖

グリーフケア講座

ビハラー活動—グリーフケア講座—

2024 年 12 月 11 日（水）11:00～12:00

龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室

❖ 概 要 ❖

2024 年 12 月 11 日 11:00 より本学大宮学舎東翼 101 教室において、特別講演「ビハラー活動～物語を紡ぐ～」が開催された。講師の新堀氏はあそかビハラー病院に看護師として従事されている。



新堀 氏

病気には「治る病気」と「治らない病気」がある。「治らない病気」になっても生きていかないといけない。その苦しみに寄り添うには医療以外にも必要なものがあると新堀氏は考えるようになり、やがてあそかビハラー病院と、その理念に出会った。現在、新堀氏は僧籍を取得し、大阪の寺院の住職もつとめている。

ビハラーには「我から我らへ」という言葉が重要であるという。仏教が大乘仏教へと展開したように、「他者」の存在を等閑視できない、他者を他者として「放って置けない」のである。また、仏教の思想基盤の一つである「生老病死」も大切にしなければならない。ビハラーでは「生老病死」すべてに向き合っていかなければならない。

あそかビハーラ病院の診療理念は、「願われないのちをともに生きるひとときに仏のお慈悲に照らされたぬくもりとおかげさまの心で安らぎの医療を実践します」である。一度、内容が難解だということから理念が変更された時期もあったが、経営権が譲渡される際にもとの理念へと戻した。難解かもしれないが、それほど大切な理念であると新堀氏はいう。

この理念は、誰のことも「健康にする」とは明記されていない。私たちが他者を元気づけるのではない、患者もその家族も職員もすべてが仏の慈悲に照らされている。その理念に新堀氏は胸を打たれ、あそかビハーラ病院の門戸を叩いたという。

新堀氏が看護の際で大切にしていることは、私たちは「生老病死」の当事者ということであるという。

人間は「生老病死」を受け入れがたい。老いたくないし、病にかかりたくないし、死ぬことは怖い。しかしそれは、「生きる」ということに目を逸らしているのではないか。私たちは生きれば生きるほどに老いていくし、病を経験していくし、死にも近づいている。それは終末医療を受けた患者さんではなく、私もいずれそうなる存在であることを「生老病死」という言葉から気付かされるという。それでも、当事者の苦しみに寄り添うことは難しい。「寄り添おう」とは思うが、当事者の苦しみに本当に寄り添えているか、ケアをするものには分からないと新堀氏は語る。しかし、いのちを生きている「生老病死」の当事者として、苦しみに寄り添っていく姿勢を忘れてはならない。

終末医療の外来患者、子どもにご飯を作りたいという思いからケアを続ける母親。一年間の闘病の末、母親は亡くなり、子どもは施設にいれられることとなる。新堀氏も当初は子どもたちに同情し、「かわいそう」と思った。しかし母親は「私が育てた子どもだから大丈夫」と強く語ったという。その時、新堀氏は「かわいそう」というのは私たちの心が作り出したものにすぎない、自分の価値観でものごとを見ていたことに気付かされたという。

仏さまの視線には一切平等で善悪なしであると教えてもらったという。終末医療の現場では、突然に患者の呼吸が停止する場面も少なくない。すると後悔の念が生まれる。家族に看取ってもらえたらよかった、一人で死なせてしまったとどうしても思ってしまう。しかし仏典には臨終に善悪はないと説かれている。すなわち「私」が臨終に良し悪しを決めていたことを、僧侶との関わりから気づいたという。仏教の教えが医療の現場でも広がっているのである。「ビハーラ活動はなかなか広がらない」といわれることがあるが、広がらないから不要なのではない。すでにビハーラはあって、それに気づいていくことが重要なんだと新堀氏はいう。「苦悩の中にいる人をひとりぼっちにしない」と仏さまが誓われているのだから、すでに道はひかれている。その道に気づいていくことがビハーラ活動ではないのだろうか。

辛いとき苦しいときには「仏さまが願ってくれている」ということを忘れないでほしいという言葉で講演は締めくくられた。

最後に鍋島氏より、寺院活動とビハーラの連関についての質問があり、新堀氏はお釈迦さまが歩いた道がビハーラであるという理念のもと、一人でもお寺を残そうと思う人がいるなら頑張ろうと思っている。世襲を離れて、このような理念を共有できる人によって寺院が維持されていけば幸甚と語られた。

❖ 応用研究部門 ❖

新春シンポジウム

臨床宗教師の現在と近未来

2025 年 1 月 15 日（水）16:00～17:15

龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂

❖ 概 要 ❖

2025 年 1 月 15 日（水）16:00 より、本学大宮学舎本館 2 階講堂において新春シンポジウム「臨床宗教師の現在と近未来」が開催された。本年は阪神・淡路大震災から 30 年の節目であたる。開会に先立って鍋島直樹氏（本学文学部教授）より哀悼の意が表され、その後に開会の辞が述べられた。続けて森田敬史氏（同教授）により、臨床宗教師・臨床傾聴士募集要項に関する説明がおこなわれ、併せて 2024 年度の本学における認定臨床宗教師およびス



谷山 氏

ピリチュアルケア師の資格取得者の紹介がなされた。なお募集要項の詳細については本学実践真宗学研究科ホームページ内にて公開されている。次に谷山洋三氏（東北大学大学院文学研究科教授）による記念講演「臨床宗教師の現在と近未来」がおこなわれた。谷山氏は臨床宗教師（および臨床傾聴士・スピリチュアルケア師）の養成を主題に、それぞれの差異や活動の拡がりについて話された。

2012 年度に「東北大学実践宗教学寄附講座」の開講より開始された臨床宗教師養成は年々に拡大しており、現在では本学実践真宗学研究科を含むさまざまな大学や付置機関にて受講することが可能となっている。そして、その臨床宗教師を受け入れる場所も全国的に広がっており、臨床宗教師がさまざまな医療・福祉施設などで評価され、受け容れられてきてい

ることが看取できる。

さて、現在本学では臨床宗教師に加えて、スピリチュアルケア師・臨床傾聴士の資格を取得することも可能であるが、それらの役割の差異はどのようなものであろうか。

谷山氏は、心のケアの提供には (A) 狭義のスピリチュアルケア、(B) 狭義の宗教的ケア、(C) 宗教的資源の活用、の三種があるとした上で、スピリチュアルケア師・臨床傾聴士は (A) がケアの主体であるが場合によっては (C) にも跨がる活動であるという。スピリチュアルケア師・臨床傾聴士は宗教や信仰に依拠せずに活動を行うが、患者の要望などによっては神社や寺院などの宗教施設や媒体を利用することも妨げられない。

一方で、宗教者として心のケアを提供する臨床宗教師は (A)、(C) にわたってケアを行うものであると定義できるが、自身の信仰を押しつけたり宗教勧誘を行うことはなため (B) に抵触することはない。(B) を伴うケアは飽くまでも「宗教者」の領域である。また、両者には組織性にも差異があるという。臨床宗教師はもともと九州の地域組織から始まり、全国に拡大してきた経緯を持ち、自ずとさまざまな団体が形成されており、組織性が非常に強い。また、宗教者には普段から話すことに慣れている者が多く、発信力が高いことも特徴である。

一方でスピリチュアルケア師は組織性は弱く、臨床傾聴士はまだ組織はないという。換言すれば、活動は個々の有資格者に一任されているというのが現状である。スピリチュアルケアは「形のないケア」であるためスキルよりメタスキル（態度）が問われる。したがって教育方法にも「型」がなく、感情や態度で相手が話しやすい空間を作る必要がある。世の中も常に変化し続けており、ケアには個性が高く研究の蓄積もいまだに充足しているとはいえない。

その上で谷山氏は、臨床宗教師・スピリチュアルケア師・臨床傾聴士の「あるべき」姿の模索、追求、活動分野の拡大が必要であると述べられた。そのためにも有資格者の増加は今後の課題とも言える。

さて、さらなる資格者の増加を目指すためには SV（指導者）の養成も必要である。ただし「指導する立場」の養成は容易ではなく、時間も要する。谷山氏は、SV には (1) 自己をより深く見詰め、自己受容を促進すること、(2) 自らに与えられた権威性を意識すること、(3) 適切な教育的態度を身につけること、の三点が求められると語気を強められた。

最後に谷山氏は臨床宗教師の今後の展望について、まだまだ未開の領域も多く課題も山積しているが、研究としても活動としてもこれからの更なる広がりが期待できると述べられ、講演は締めくくられた。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

研究セミナー

ジェンダーの視点で語る仏教者による社会実践

2024 年 5 月 17 日（金）17:00～19:20

龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール／オンライン（Zoom）併用

---

---

❖ 概 要 ❖

---

龍谷大学大宮キャンパスでは 2024 年 5 月 17 日（金）に「ジェンダーの視点で語る仏教者による社会実践」と題する研究会が開かれた。本研究会ではまず、アンチャリー・クルターチ（Ms. Anchalee Kurutach）氏 International Network of Engaged Buddhists（INEB、エンゲージド・ブuddhist 国際ネットワーク）による基調講演が行われ、続いて三善恭子氏（公益財団法人世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会総務部長）、枝木美香氏（認定 NPO 法人アユス仏教国際協力ネットワーク事務局長）、ラングナー寺本・ベッティナ清真氏（浄土真宗本願寺派極楽寺衆徒、建築家）による活動報告が行われた。休憩後のディスカッションでは、島藺進氏（東京大学名誉教授、龍谷大学客員教授）がコメンテーターをつとめ、嵩満也氏（龍谷大学教授）がファシリテーターをつとめた。

開会の挨拶では嵩氏が本研究会の目的について、仏教的な社会倫理を現代社会においていかに具体化していくのか、さまざまな視点から捉え直し、研究を進めることであると述べた。次にアンチャリー・クルターチ氏が「積極的平和の実践—ジェンダー平等と社会的包摂の行動—」というテーマで基調講演を行った。氏は、INEB の基本原則や活動分野を述べ、アジアの国々における具体的な活動について紹介した。また、INEB がその活動を通して、ジェンダー平等と社会的包摂を目指していることに言及した。

次に、日本国内で活躍する三善氏、ラングナー寺本氏、枝木氏の3名が活動報告を行った。三善氏は「立正佼成会の社会活動とジェンダーの視点」と題し、立正佼成会が仏教の教えに基づいた社会貢献活動を行っており、特に女性エンパワーメントや同性パートナーシップ制度の導入に取り組んでいることを報告した。



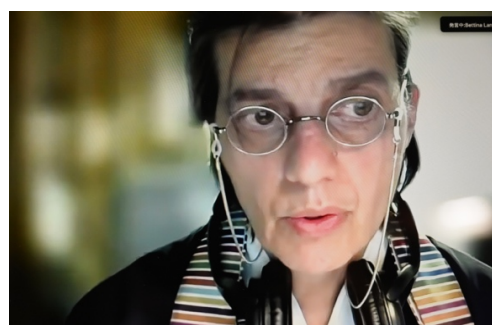
三善 氏

枝木氏は、アユスの設立や方針、さらにはその国際的なネットワークなどについて紹介した後、国内外における具体的な活動について報告した。例えば、タイではアユスが HIV/AIDS の啓発活動や陽性者の自助グループ支援に携わっている。このほかトルコ・シリア大地震、ウクライナ危機、ガザ危機などへの支援活動も行っている。そして、継続して注視してきた課題として、ジェンダー平等や社会における女性エンパワーメントなどについてワークショップを開催し、国内外の学術フォーラムなどで議論を続けてきたことを報告した。



枝木 氏

最後にラングナー寺本氏は、お寺が地域コミュニティにおいて重要な役割を果たしていることを強調し、包摂的な社会を実現するための建築プロジェクトについても説明した。



ラングナー寺本・ベッティーナ清真氏

以上3名の活動報告を受けて、島藺進氏がそれぞれの発表内容を総括した上でコメントを行い、問題提起した。氏は、現代仏教の社会倫理におけるジェンダーの視点の重要性を強調し、仏教が持つ社会変革の可能性について述べた。



島藺 氏

また、嵩氏の司会のもと、登壇者の間でジェンダー平等と社会的包摂の実現に向けた具体的な活動について活発なディスカッションと意見交

換が行われた。会場およびオンライン参加者から多くの質疑も寄せられた本研究会は、仏教の社会倫理におけるジェンダー視点の重要性を再確認し、今後の研究と実践の方向性について多くの示唆を与えるものとなった。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

国際ワークショップ／沼田研究フェロー講演会

浄土真宗、ハンセン病、近代日本における「死者の市民権」

2024 年 6 月 10 日（木）15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／オンライン（Zoom）

---

---

❖ 概 要 ❖

---

龍谷大学大宮キャンパスでは 2024 年 6 月 10 日（月）に「Buddhism, Hansen's Disease, and 'Necro-citizenship' in Modern Japan（浄土真宗、ハンセン病、近代日本における「死者の市民権」）と題する国際ワークショップが開かれた。講演者はジェシカ・スターリング氏（ルイス・アンド・クラーク大学宗教学科長・准教授）で、司会は本学教授の那須英勝氏がつとめた。

スターリング氏は、主に仏教は「生活宗教」とあるというアプローチに基づき、人々が実際に生活するなかで、仏教がどのように日常生活と関係し、あるいは影響を与えているかを研究課題としている。氏の最初の著書は、浄土真宗の信者の家庭環境における宗教の役割を探るもので、儀式や経典などに限定せず、日常生活のなかでの仏教の関わりを論じたものである。



ジェシカ・スターリング氏

今回の講演では、現在進行中の研究プロジェクトである「ハンセン病と仏教の関係」の諸問題を取り上げた。まず、日本のハンセン病患者の人権問題や、20 世紀の日本政府によ

るハンセン病政策について説明した。次に、具体的な事例を提示しながら、日本政府の隔離政策が患者やその家族に与えた影響や、近代日本におけるハンセン病患者の扱いがどのように変遷してきたかを説明した。

このほか、仏教関係者がハンセン病患者の諸問題を改善するためにどのような活動をしたのかについても説明が行われた。具体的には、西日本のさまざまな仏教団体がハンセン病療養所で行っているボランティア活動の紹介である。こうした活動は患者の社会的孤立を和らげるのみならず、患者の「死後の市民権」を獲得するための助けとなっている点を強調した。

講演後、現地及びオンライン参加者を交えて活発な質疑応答が行われた。今回のワークショップを通して、日本社会におけるハンセン病やマイノリティーの問題などの解決のために、仏教関係者の役割の重要性が再確認された。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

国際ワークショップ

現代日本の仏教寺院  
—宗教的廃棄物、再利用、そして活性化—

2024 年 6 月 13 日（木）15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室／オンライン（Zoom）併用

---

---

❖ 概 要 ❖

---

龍谷大学大宮キャンパスでは 2024 年 6 月 13 日（木）に「Japanese Buddhist Temples: Religious Waste, Reuse and Revitalization（現代日本の仏教寺院：宗教的廃棄物、再利用、そして活性化）」と題する国際ワークショップが開かれた。講演者はヤアン・ボーロプ（Jørn Borup）氏（オーフス大学〔デンマーク〕、文化社会学部・宗教学科教授）で、司会は本学教授の那須英勝氏がつとめた。今回のワークショップでは、ボーロプ氏が現在進めている研究プロジェクトの一環として、日本の仏教寺院と持続可能な開発を目標に焦点を当てた内容を紹介した。

まずボーロプ氏は、我々が廃棄物と物質過剰の時代に生きており、それは環境への負荷だけでなく、人間としてのあり方についても影響を及ぼしているという。また、様々な宗教活動から廃棄物も発生しているが、このような「宗教的廃棄物」はデリケートなテーマであるため、普段、無視され、あるいはその取り扱いが難しいとされる。日本の事例から言えば、こうした「宗教的廃棄物」には、大規模なお祭りの際に廃棄されるプラスチック



ヤアン・ボーロプ氏

や紙製品、お寺にお供えされた食品の余剰物、そして不要になった仏具、仏像、仏壇などが含まれる。さらに、都市化や過疎化などによる、いわゆる「無縁社会」における後継者不足や世俗化の拡大の影響で、使用されなくなった宗教的建築物もある。

今回の講演では、ボーロプ氏が現在進めている日本の「宗教的廃棄物」に関する研究プロジェクトで得られた成果の一部が紹介された。まず、日本の「宗教的廃棄物」の例として、さまざまな形で存在する「余剰寺院」（空寺、無住寺院、兼務寺院、廃寺など）と、それらが発生する社会的、宗教的な事情について説明した上で、廃棄物の再利用と活性化を目指した国内におけるいくつかの事例についても紹介した。具体的な事例として、京都の「ゴミゼロ」運動や四国地方で行われた「ゼロウェイストタウン」の取り組みを紹介し、仏教の哲学や宗教的儀式が廃棄物管理にどのように役立つかを説明した。同じく、寺院での太陽光発電の利用や「エコ寺院」としての取り組み、食品の再分配プロジェクトなどの実例を通じて、仏教が持続可能性に貢献する具体的な方法を示した。なお、「宗教的廃棄物」の適切な管理のあり方とは何か、またその規則をいかに制定すべきなのかについて話した。

最後にボーロプ氏は、持続可能な開発目標や観光仏教、体験型仏教などの新しい取り組みが、いかなる形で仏教寺院の存続に寄与できるのか、その展望を述べた。そして、ボーロプ氏は社会的資本の重要性を強調し、地域社会との連携が寺院の再生に不可欠であると結論付けた。講演の後、現地及びオンライン参加者を交えた活発な質疑応答が交わされ、持続可能な社会に向けた仏教の役割についての理解が深められた。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

国際ワークショップ

第 13 回『歎異抄』註釈ワークショップ

2024 年 6 月 28 日（金）～30 日（日）

龍谷大学大宮学舎

---

---

❖ 概 要 ❖

---

2024 年 6 月 28 日（金）から 30 日（日）にかけて、龍谷大学大宮キャンパスを会場に第 13 回『歎異抄』註釈ワークショップが開催された。本ワークショップは、学术交流協定を結ぶ龍谷大学世界仏教文化研究センター、大谷大学真宗総合研究所、米国カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所の三研究機関が主催するもので、今回で 13 回目となる。

この度は円智『歎異抄私記』（1662 年）・寿国『歎異抄可笑記』（1740 年）・香月院深励『歎異抄講義』（1801-8 年）という三つのテキストごとに班にわかれ、各註釈書の精読と議論を経た上で、原文の英訳作業が行われた。今回は第十五条と第十六条を中心に註釈箇所の英



ウェイン・シゲト・ヨコヤマ氏

訳が行われた。出席者は三日間にわたり、各翻訳グループの部屋を移動しながら、異なる註釈内容を学ぶとともにその英訳作業のプロセスに参加した。

開催中の二日目の午前 10:30 からは、嵩満也教授の司会・進行のもと、ウェイン・シゲト・ヨコヤマ氏が「Re-examining Shinran's words in *Tannishō*, 7: The one path unimpeded / mugéno

ichidō」(『歎異抄』第七条における親鸞の言葉の再検討—無礙の一道を中心に)というテーマで講演した。

ヨコヤマ氏は、特に「無礙の一道」という概念に焦点を当て、鈴木大拙など近代仏教研究者の解釈を紹介し、関係する文献についても詳しく説明した。講演後、参加者から数多くの質問がなされ、活発な質疑応答で終わりを迎えた。そして、当日の午後から、それぞれ



円智班の様子



深励班の様子

れのグループは、継続して翻訳作業を行った。

最終日の午後は、各班のリーダーがそれぞれのテキストの主な議論の内容と特色について紹介し、翻訳の進捗状況について報告を行った。アメリカ(UCB、シカゴ大学大学院生)・カナダ(モントリオール大学)、香港、韓国・中国・日本などから多くの研究者が参集し、活発な議論が交わされた。なお次回のワークショップは 2025 年 3 月に、カリフォルニア州バークレー市の浄土真宗センターを会場として行われる予定である。



寿国班の様子

### <6 月 28 日(金)>

---

10:00-11:00 Introduction, Discussion of the Aims of the Workshop

(開催挨拶、ワークショップの目的について)

ファシリテーター：嵩 満也(龍谷大学教授)

11:00-12:00 Small Group Translation Session 1 (小グループ翻訳会議1)

13:00-14:30 Small Group Translation Session 2 (小グループ翻訳会議2)

14:50-17:00 Small Group Translation Session 3 (小グループ翻訳会議3)

---

<6月29日(土)>

---

- 10:30-12:00 Research Seminar (Re-examining Shinran's words in *Tannishō*, 7: The one path  
unimpeded / mugéno ichidō) (ウェイン・シゲト・ヨコヤマ氏による公開セミナー)
- 13:00-14:30 Presentation Session (セッション)
- 14:50-17:00 Small Group Translation Session 4 (小グループ翻訳会議 4)
- 

<6月30日(日)>

---

- 10:00-12:00 Small Group Translation Session 5 (小グループ翻訳会議5)
- 13:00-14:30 Small Group Translation Session 6 (小グループ翻訳会議6)
- 14:50-17:00 Presentation of small group translations and plans for the next workshop  
(各班の進捗状況発表と次回のワークショップについて紹介)
-

❖ 国際研究部門 ❖

国際ワークショップ

現代の日本仏教における  
社会の分断化と地域社会へのアウトリーチ活動

2024年7月4日（木）15:15～16:45

龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室／オンライン（Zoom）併用

❖ 概 要 ❖

龍谷大学大宮キャンパスでは、2024年7月4日（木）に「Social Fragmentation and Community Outreach in Contemporary Japanese Buddhism（現代の日本仏教における社会の分断化と地域社会へのアウトリーチ活動）」と題する国際ワークショップが開かれた。講演者はエリザベッタ・ポルク（Elisabetta Porcu）氏（ケープタウン大学、南アフリカ共和国）、コメンテーターはウゴ・デッシ（Ugo Dessi）氏（ウィーン大学・宗教学部 専門研究員）である。司会 は本学教授の那須英勝氏がつとめた。



エリザベッタ・ポルク氏

今回のワークショップでは、ポルク氏が研究を進めている研究プロジェクトが紹介された。ポルク氏は、現代の日本社会における宗教離れの現象と、その現象に対応しようとしている仏教寺院の活動、特に大衆文化を活用した、従来とは異なる宗教的なアウトリーチ活動について、具体的な事例を提示しながら説明した。

まずポルク氏は、宗教がもはや現代社会において結合の役割を果たさないと述べる、社

会学者エンツォ・パーチの理論を引用した。そして、こうした状況のなか、宗教団体はいかにして資本主義社会にアプローチしているのかを説明した。そのアプローチについて、ポルク氏は京都でのフィールドワークから得られた調査結果の一部を紹介し、仏教寺院と大衆文化の関わりを示す具体例を紹介した。それは、マンガやアニメなどを新しいマーケティング・ツールとして活用し、それぞれの宗派の社会的な認知度を高めようとしている仏教寺院の活動例である。例えば、本願寺派ではマンガやアニメなど大衆文化的な媒体を用いて親鸞聖人や蓮如上人の教を一般向けに届けている。他の宗派でも、ポピュラーな音楽や、メタバースのようなバーチャル・リアリティ技術を利用したアウトリーチ活動を繰り広げている。ポルク氏によれば、日本におけるこうした文化の活用は、世界における禅ブームのように、日本のソフトパワーを向上させる効果もあるという。このほか、日本における宗教活動が仏教寺院や日本社会、さらには海外においていかなる影響を及ぼしているのか、ポルク氏がこれまでに実施した調査に基づき紹介した。



ウゴ・デッシン氏

次にポルク氏の発表を受け、ウゴ・デッシン氏がコメントを行った。その中心となったのは、社会と個人の分断という現象が日本仏教にどのような影響を与えているか、という問題である。デッシン氏は、マンガやアニメといった大衆文化や最新のテクノロジーを活用した宗教的なアウトリーチ活動について、確かに一般人が身近に宗教に触れる機会となると述べた。その

一方で、こうした大衆文化や技術を用いた宗教の過剰な商品化が、1990年代から急速に進んだ日本社会におけるネオリベラリズムの浸透と、そうしたイデオロギーを基礎にした文化資本主義の現象をも物語っているという。とはいえ、ポルク氏によって指摘されたように、宗教団体への加入率は減っているものの、その低下率は他のボランティア団体の加入率ほどではないという。また、宗教団体に所属した人々の投票率が高いという調査結果から分かるように、宗教団体による社会的なアウトリーチ活動が、社会的な分断を防げる効果があると述べた。

今回のワークショップを通じて、現代の日本仏教が直面する課題と、それに対応しようとする新たな活動と問題点が見えてきた。それと同時に、日本仏教、市場経済、科学技術の間の複雑な相互作用が説明され、宗教と文化の二重の商品化現象と、グローバリゼーションの影響でローカルに生成される新たなハイブリッド文化についても明らかになった。

講演後、参加者を交えた活発な質疑応答が交わされ、盛況のうちにワークショップは終了を迎えた。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

国際真宗学会大会公開記念講演会

『往生要集』における浄土信仰の諸問題

2024 年 9 月 28 日（土）15:30～16:30

龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール／オンライン（Zoom）

---

---

❖ 概 要 ❖

---

龍谷大学大宮キャンパスでは、2024 年 9 月 28（土）～29 日（日）の 2 日間にわたり、第 20 回国際真宗学会大会が開かれた。初日の 28 日（土）には、大谷大学名誉教授のロバート・F・ローズ（Rhodes Franklin Robert）氏による「Some Issues of Pure Land Practice in the *Ōjōyōshū*（『往生要集』における浄土信仰の諸問題）」と題する公開記念講演が行われた。

本講演では、ローズ氏が長年にわたり研究してきた、平安中期の天台宗の僧である源信が著した『往生要集』を中心に、①本書における密教的な要素の位置づけ、②浄土教者に要求された厳しい修行に対する源信の見解、③貪欲に起因して戒律を破る僧侶に対する源信の見解、という 3 点のテーマが取り上げられた。



ロバート・F・ローズ氏

次にローズ氏は、浄土教における厳しい修行に耐えられない行者に対する源信の慈悲深い修行方法について取り上げた。『往生要集』では、行者の機根に応じて複数の行法（阿弥陀仏の観念念仏と称名念仏）が用意されている。上

級の行者には、より複雑な観念の行法が提供され、初心者には阿弥陀仏の名前のみを唱えるというシンプルな行法が勧められている。また、修行に専念できない行者には、日常生活の中に念仏を取り入れる習慣が勧められており、行者が日常生活の中でも阿弥陀とつながりを持つことができるような方法が示されている。こうした工夫によって、源信が多様な機根の行者に対応し、修行そのものの複雑さよりも行者の機根に対応することがより重要であると捉えたことが分かる。

続いてローズ氏は、源信が物質的な豊かさを追求して、戒律を破る僧を批判することを取り上げた。源信は僧が適度な禁欲と自制をたもち、最低限の資産に頼り、欲を抑制すべきであると強調した。源信のこうした姿勢は、みずからが属する延暦寺の僧たちによる富と政治的結びつきが、仏教的な道徳を墮落させ始めたことを懸念した結果であったと言える。戒律に関して、源信は両義的な姿勢を示している。源信は僧による戒律違反を批判する一方、いったん出家した僧については功德を有していることから尊敬を受ける資格があると説いた。このようなバランスをとった姿勢は、『大集経』のような仏典に基づくもので、このことによって仏教徒が道徳心を維持することができると同時に、行者に対して過度に干渉することも避けられると源信が考えていたと指摘した。最後にローズ氏は、『往生要集』の研究にはまだ多くの未解決の問題が残されていることを指摘し、更なる研究が必要であると述べた。講演の後、参加者を交えた活発な質疑応答が交わされ、盛況のうちにワークショップは終了を迎えた。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

ワークショップ

初期イスラーム社会のセクシュアリティとクィア研究  
—LGBTQ「受容」に向けたイスラームの試み—

2024 年 12 月 21 日（土）14:00～17:00

龍谷大学大宮学舎 東翼 202 教室／オンライン（Zoom）

---

---

❖ 概 要 ❖

---

龍谷大学大宮キャンパスでは、2024 年 12 月 21 日（土）に「初期イスラーム社会のセクシュアリティとクィア研究—LGBTQ「受容」に向けたイスラームの試み—」と題するワークショップが開かれた。発表者は辻大地氏（東京都立大学人文社会学部・助教）で、司会とレスポンドントは、宇治和貴氏（筑紫女学園大学人間科学部・教授）がつとめた。



辻 氏

本ワークショップでは、辻氏がこれまでに行ってきた前近代イスラーム社会に関する研究の一部として、歴史資料や文学作品など具体例を提示しながら、特に前近代のイスラーム社会における LGBTQ に対する眼差しについて発表を行った。辻氏は歴史学を専門とし、2023 年 12 月に「前近代アラブ・イスラーム社会における〈同性愛〉概念の誕生」と題する博士論文を提出している。今回は、その研究を基に、イスラーム社会における同性愛および LGBTQ の歴史的・法的側面について語った。

まず、辻氏は現代のイスラーム法において同性愛がどのように規定されるのかについて

説明し、その背景にあるクルアーンやハディースなどの宗教的資料の解釈を提示しながら、9 世紀～11 世紀頃のイスラーム社会における、同性愛に対する眼差しについて述べた。イスラーム法学者による同性愛の解釈は、旧約聖書の「ソドムとゴモラ」の物語と対応する「ロトの民の話」がクルアーンに登場することから知られるように、基本的にキリスト教における同性愛を否定する解釈と同様の文脈での理解が継承された。

イスラームでは、ロトの民の行為が同性愛行為と理解されてきた。しかし、クルアーンには同性愛を明確に禁じる記述がなく、そうした解釈が後世の法学者や宗教指導者によって追加されたことが強調された。実際、クルアーンに描かれた楽園の描写のなかに、酔わない酒や美しい少年が褒美として与えられることが記されており、前近代のイスラーム社会では少年愛がある程度許容されていたことが知られる。しかしながら、現代のイスラーム社会では、同性愛はほとんどの場合、固く禁じられており、前近代と現代におけるこうした文化・宗教的なギャップについてたびたび指摘されている。

次に辻氏は、現代のイスラーム社会における「クィア」な解釈の状況についても紹介した。近年、欧米を中心に、ゲイであることを公言するイマーム（宗教指導者）やイスラーム教徒の研究者が、クルアーンを新たに読み直し、同性愛や LGBTQ について新たな解釈を始めている。とはいえ、こうした「クィア」な解釈は、保守的なムスリム社会ではまだ十分に受容されていないのが現状である。特に法学者間の合意が重視されるイスラーム社会では、少数の法学者が新しい解釈を示しても、広く受容されるには時間がかかりそうである。

辻氏による発表の後、宇治氏が発表者に感謝を表し、今回の発表を通して、イスラームにおける同性愛の解釈やクィアな視点の展開について多くの示唆を得たと述べた。特にクルアーンに同性愛が直接否定されていないことや、「ロトの民の話」に関する新たな解釈が興味深かったという。続いて宇治氏は、イスラームにおけるクィアの解釈の始まりやその広がりな



宇治 氏

どについて質問し、活発な議論が行われた。そして、宇治氏の司会のもとで、現地参加者にとどまらず、オンライン参加者からも積極的な質疑や発言があり、活発なディスカッションが行われた。

本ワークショップを通じ、イスラーム社会における同性愛および LGBTQ への姿勢は歴史

的に多様で、一概に「イスラームは同性愛を禁じてきた」と断定することはできないことが知られた。クルアーンやハディースの解釈をめぐる議論は現在も続いており、今後のイスラーム社会における LGBTQ の受容についての議論は、ますます重要性を増すであろう。

---

❖ 国際研究部門 ❖

---

---

国際ワークショップ  
第 14 回『歎異抄』註釈ワークショップ

2025 年 3 月 7 日(金)～9 日 (日)  
浄土真宗センター  
2140 Durant Avenue, Berkeley, California, USA

---

---

❖ 概 要 ❖

---

2024 年 3 月 7 日 (金) から 9 日 (日) にかけて、カリフォルニア州バークレー市の浄土真宗センターを会場に第 14 回『歎異抄』註釈ワークショップの開催が予定されている。現時点で計画されているプログラムの詳細は、以下の通りである。

<3 月 7 日 (金) >

---

10:00-11:00 Introduction, Discussion of the Aims of the Workshop  
11:00-12:00 Small Group Translation Session 1 (小グループ翻訳会議1)  
13:00-14:30 Small Group Translation Session 2 (小グループ翻訳会議2)  
14:50-17:00 Small Group Translation Session 3 (小グループ翻訳会議3)

---

<3 月 8 日 (土) >

---

10:00-12:00 Small Group Translation Session 4 (小グループ翻訳会議4)  
13:00-14:30 Small Group Translation Session 5 (小グループ翻訳会議5)  
14:50-17:00 Small Group Translation Session 6 (小グループ翻訳会議6)

---

<3月9日(日)>

---

10:00-12:00 Small Group Translation Session 7 (小グループ翻訳会議7)

13:00-14:30 Small Group Translation Session 8 (小グループ翻訳会議8)

14:50-17:00 Presentation of small group translations and plans for the next workshop 9

(小グループ翻訳会議9) (各班の進捗状況発表と次回のワークショップについて紹介)

---



## *Journal of World Buddhist Cultures, Vol. 8*

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University,  
March 2025

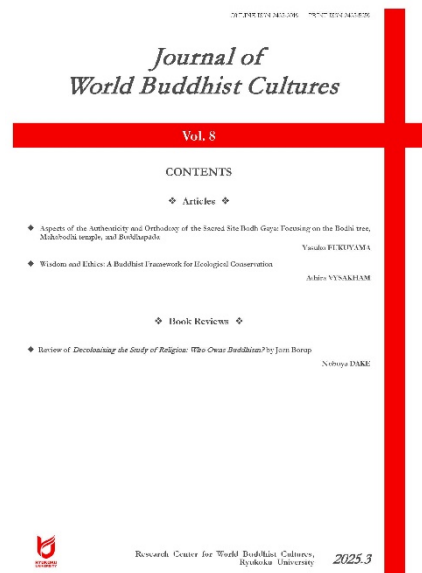
### ❖ 概 要 ❖

昨年度に引き続き、本年度も龍谷大学世界仏教文化研究センターが発行する英文の学術誌 *Journal of World Buddhist Cultures* (JWBC) の第 8 号が 2025 年 3 月 7 日にオンラインで公開された。

今号に掲載された論文の応募期間は 2024 年 6 月 11 日～9 月 27 日であった。この間、若手・熟練を問わず世界中の研究者から多くの意欲的な論考が寄せられた。寄せられた論考は、JWBC 編集委員会の協議ならびに国内外の専門家による査読を経て、最終的に 2 件の論文が掲載された。また、投稿論文のほか、外国語で書かれた近刊の学術書の書評も 2 件が掲載された。内容は龍谷大学世界仏教文化研究センターのウェブサイト (<https://rewbc.ryukoku.ac.jp/journal-of-world-buddhist-cultures/journal/>) からご覧いただける。

なお、刊行に際して、貴重な論考をお寄せいただいた投稿者の皆様、査読にご協力いただいた先生方、アドバイザー・ボードならびに編集委員、世界仏教文化研究センター事務部の皆様に伏してお礼を申し上げる。皆様の専門的な知識と熱意によって本号は成った。

龍谷大学世界仏教文化研究センターでは、こうした国際的な学術活動により、国内外における情報発信や仏教研究者とのネットワークづくりを目標の一つとしている。今号はその契機として、さらなる発展を期待するものである。



*Journal of World Buddhist Cultures*  
(JWBC) 第 8 号表紙



---

龍谷大学世界仏教文化研究センター  
2024 年度 研究体制

---



---

---

## 龍谷大学世界仏教文化研究センター 2024 年度研究体制

---

---

### ❖ センター長 ❖

---

藤原直仁      龍谷大学心理学部・教授

---

### ❖ 副センター長 ❖

---

野呂靖      龍谷大学心理学部・准教授

---

### 1) 基礎研究部門（教義的・歴史的・文化学的・文献学的研究）

---

三谷真澄（研究部門長）      龍谷大学文学部・教授

#### 1. 親鸞浄土教総合研究班

高田文英（真宗善本典籍研究プロジェクト研究代表者）      龍谷大学文学部・教授  
嵩満也（真宗学研究プロジェクト研究代表者）      龍谷大学国際学部・教授

井上見淳、井上善幸、内田准心、内手弘太、打本弘祐、葛野洋明、佐々木大悟、武田晋、玉木興慈、殿内恒、那須英勝、鍋島直樹、能美潤史、藤能成、森田敬史

#### 2. 西域総合研究班

三谷真澄（研究班長）      龍谷大学文学部・教授

市川良文、岩井俊平、岩尾一史、岩田朋子、入澤崇、岡本健資、徐光輝、曾我麻佐子、玉井鉄宗、中田裕子、福山泰子、藤原崇人、村岡倫

#### 3. 古典籍資料総合研究班

和田恭幸（研究班長）      龍谷大学文学部・教授

寺田詩麻、内田智子、余田弘実、千賀由佳、竹内真彦

#### 4. 大蔵経総合研究班

能仁正顕（研究班長）      龍谷大学文学部・教授

石川知彦、岩田朋子、楠淳澄、西山良慶、野呂靖、長谷川岳史、早島慧、藤丸要、三谷真澄、道元徹心、壬生泰紀、吉田哲

#### 5. 仏教史・真宗史総合研究班

中西直樹（研究班長）      龍谷大学文学部・教授

内手弘太

#### 6. 特定公募研究

共同研究：殿内恒（研究代表者）、村岡倫（研究代表者）、岩田朋子（研究代表者）、  
内田准心（研究代表者）

個人研究：堀祐彰、崔鵬偉、和田秀寿

#### 7. 研究分野横断的研究プログラム

葛野洋明（応用学術研究プログラム研究代表者）

---

---

## 2) 応用研究部門（社会的諸課題への応答・仏教の現代的意義の追求）

---

---

鍋島直樹（研究部門長） 龍谷大学文学部・教授

### 1. 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

鍋島直樹（研究班長） 龍谷大学文学部・教授

吾勝常行、井上見淳、井上善幸、猪瀬優里、岩井未来、内田准心、内手弘太、打本弘祐、葛野洋明、黒川雅代子、佐々木大悟、高田文英、武田晋、嵩満也、玉木興慈、殿内恒、那須英勝、能美潤史、藤丸要、森田敬史

### 2. ジェンダーと宗教研究センター

清水耕介（研究班長） 龍谷大学国際学部・教授

野呂靖、早島慧、松永敬子、水尾文子

### 3. 紛争解決研究班

陳慶昌（研究班長） 龍谷大学国際学部・教授

清水耕介、中根智子、橋口豊、濱中新吾、原田太津男

### 4. 社会的孤立回復支援研究センター

黒川雅代子（研究班長） 龍谷大学短期大学部・教授

赤津玲子、金尚均、深尾昌峰、吉川悟

---

---

## 3) 国際研究部門（国際的な発信と研究者交流）

---

---

那須英勝（研究部門長） 龍谷大学文学部・教授

佐野東生、嵩満也、久松英二、古荘匡義

---

---

## 世界仏教文化研究センター博士研究員、リサーチ・アシスタント

---

---

博士研究員

崔鵬偉（基礎研究部門）、西村慶哉（応用研究部門）、プラダン・ゴウランガ・チャラン（国際研究部門）

リサーチ・アシスタント

武宮真如（国際研究部門）、都河陽介（基礎研究部門）、山本未久（応用研究部門）



---

龍谷大学世界仏教文化研究センター

## 2024 年度研究活動報告書

2025 年 3 月 31 日発行

編 集 龍谷大学世界仏教文化研究センター

(崔鵬偉、武宮真如、都河陽介、西村慶哉、プラダン・ゴウランガ・チャラン、山本未久)

発行者 龍谷大学世界仏教文化研究センター (代表 センター長 藤原直仁)

〒600-8262 京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1 白亜館 3F

電話: 075-343-3812 E-mail: cswbc@ad.ryukoku.ac.jp

URL: <https://rcwbc.ryukoku.ac.jp/>

印刷所 株式会社 河北印刷

---



